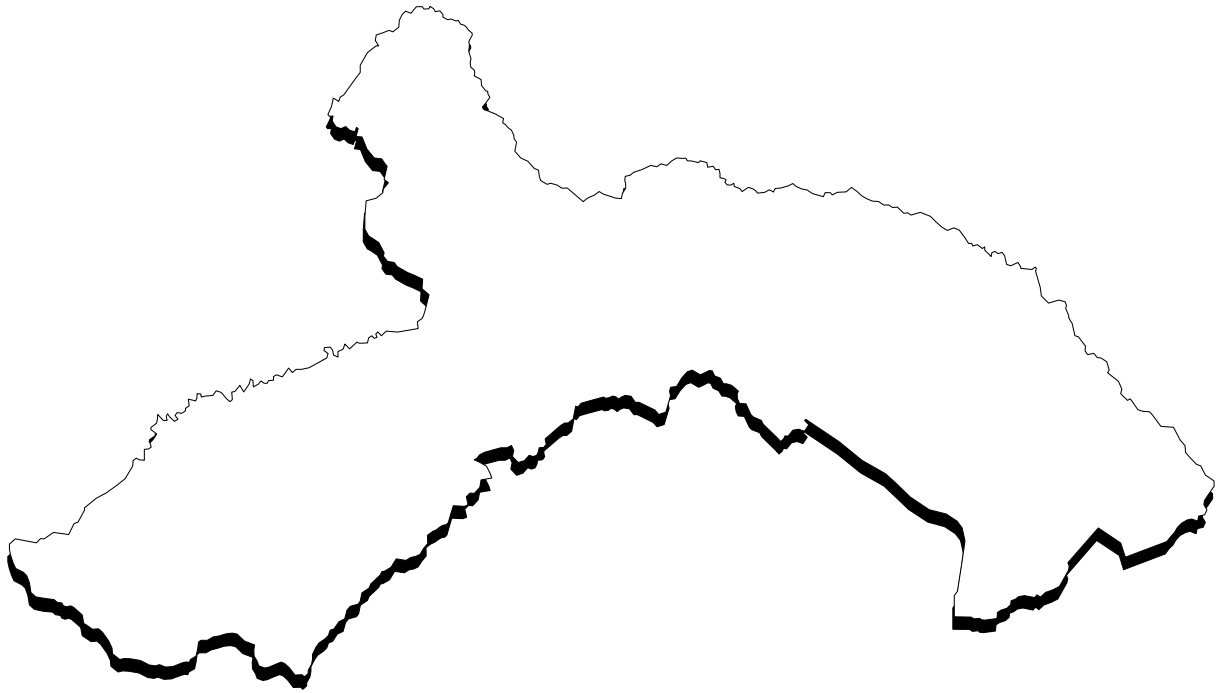


相模原・津久井地域まちづくりの将来ビジョン

< 素案 >



相模原・津久井地域合併協議会
まちづくりの将来ビジョン検討委員会

～ 目 次 ～

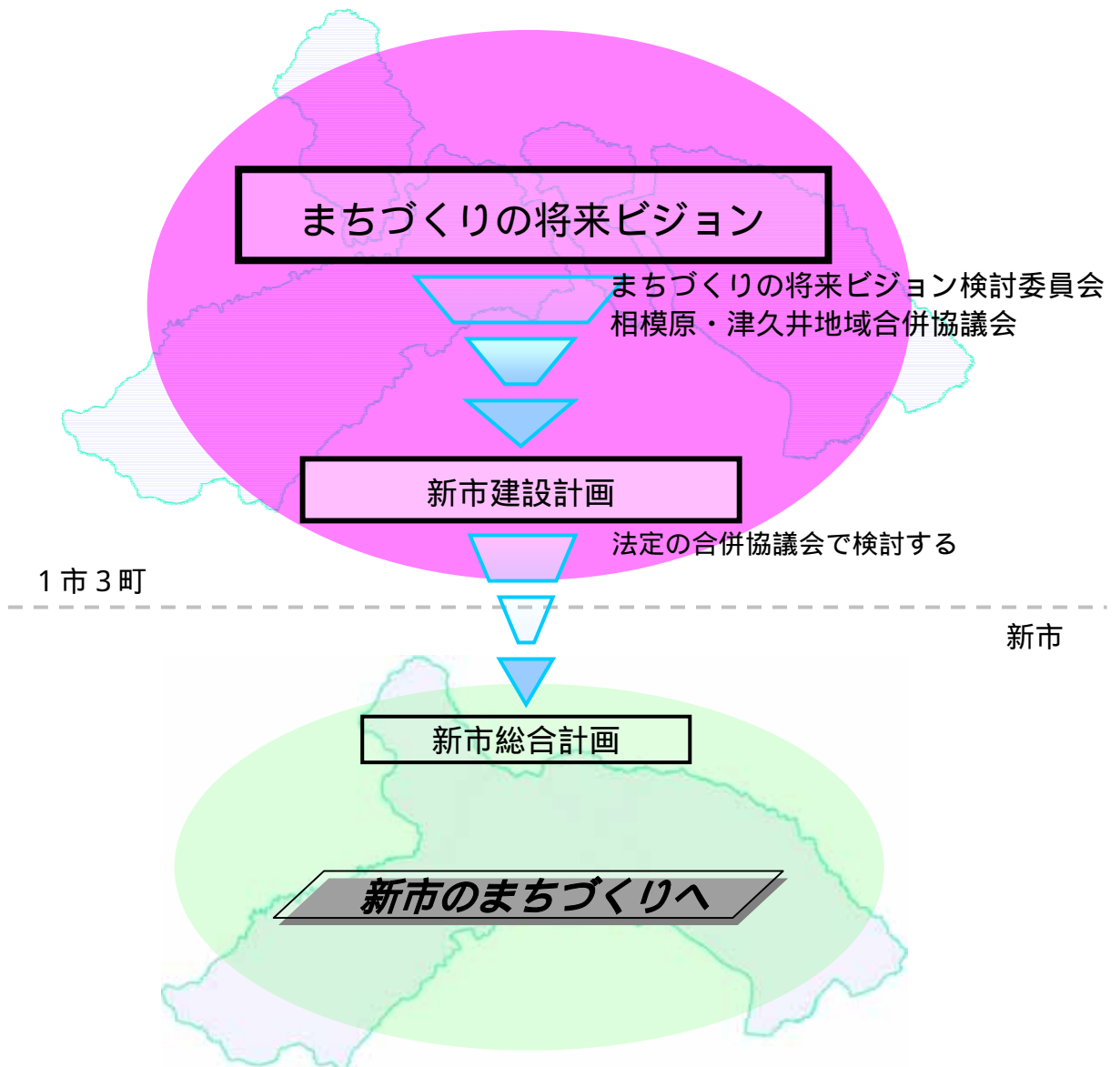
第1章	まちづくりの将来ビジョン策定にあたって
1.	策定の趣旨
2.	策定の方針
第2章	新市のまちづくりの基本方向
1.	新市の将来像
2.	合併シンボルプロジェクト
3.	まちづくりの進め方
第3章	まちづくりの目標
第4章	財政シミュレーション
補章	まちづくりの検討課題
1.	1市3町の地域特性や資源に関する意見一覧
2.	分野別課題
2-1.	交通、都市基盤
2-2.	自然・環境
2-3.	産業・観光、土地利用
2-4.	教育・文化、健康・福祉、安全・安心
2-5.	参加・協働、行財政
参考資料		
参考1	合併の背景
参考2	1市3町の概況
1.	位置と地勢
2.	沿革
3.	面積
4.	人口・世帯
5.	土地利用
6.	道路・交通
7.	産業
まちづくりの将来ビジョン検討委員会について		
-	まちづくりの将来ビジョン検討委員会の検討経過	
-	まちづくりの将来ビジョン検討委員会 委員名簿	

第1章 「まちづくりの将来ビジョン」策定にあたって

1. 策定の趣旨

「相模原・津久井地域まちづくりの将来ビジョン」(以下、「ビジョン」という。)は、相模原市、城山町、津久井町及び相模湖町の1市3町が合併した場合にどのようなまちづくりをめざすのかについて、そのイメージを住民に分かりやすく示し、合併についてさらに議論を深めていただくための判断材料とするものです。

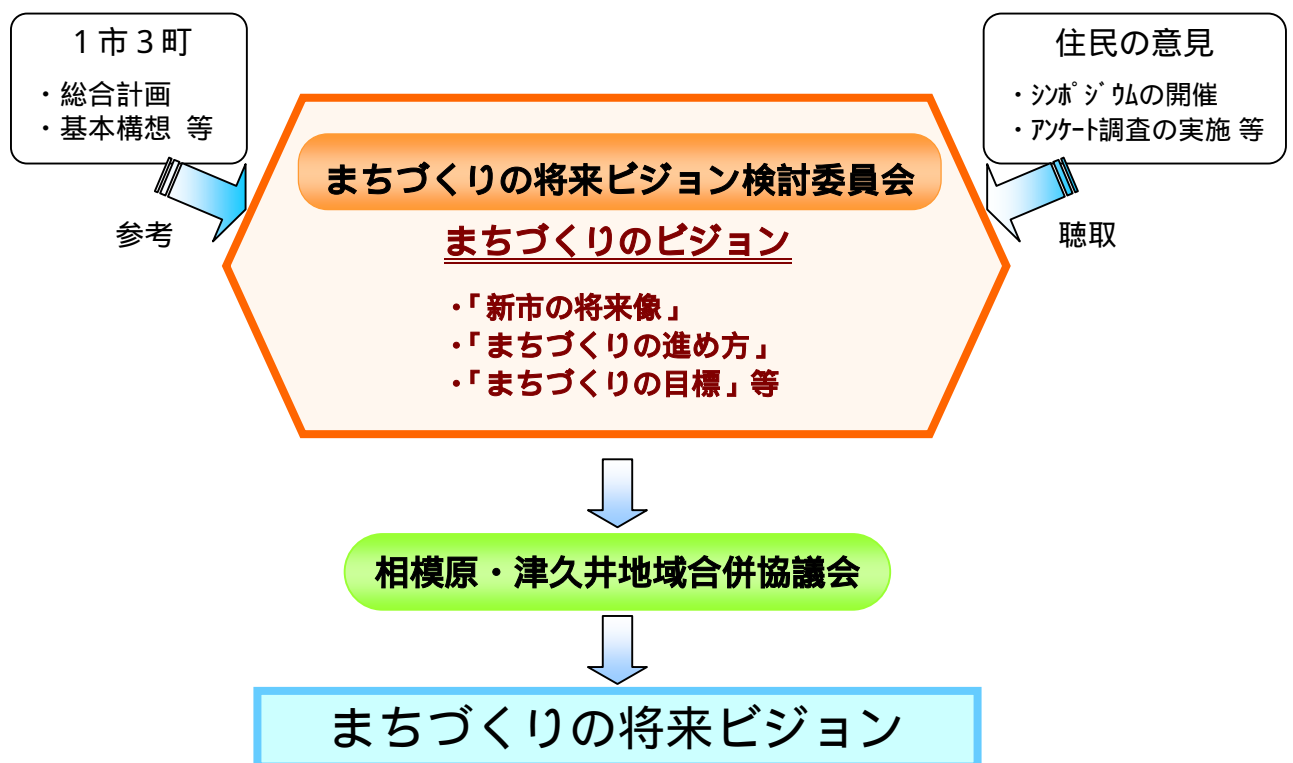
今後さらに検討が進み、各市町の議会の議決を経て法定の合併協議会が設置された場合は、新市建設の基本方針や根幹的な事業について定める「新市建設計画」策定の際、活用されていくこととなります。



2. 策定の方針

ビジョンの策定にあたっては、一般公募の住民及び学識経験者で組織された「まちづくりの将来ビジョン検討委員会」(以下、「まちづくり検討委員会」という。)において、1市3町が抱える課題の認識を共有するとともに、各市町がこれまで取り組んできたまちづくりの考え方を踏まえながら、新市の将来の夢を語り合って作成しました。

更に、住民の皆様にも、この素案をシンポジウムなどで説明するとともに、アンケート調査などにより広く意見を聴取し、最終的にまちづくり検討委員会の中で集約を行い、相模原・津久井地域合併協議会で協議の上、決定されることとなります。



(1)対象エリア

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町が合併して1つの市になることを想定し、1市3町全域を対象とします。

(2)住民意見の反映

シンポジウム、アンケート、パブリックコメントなど、幅広い住民の意見の把握に努め、ビジョンに反映します。

(3)地域特性の尊重

1市3町には、今までに培われた歴史的経緯や文化があり、これらの地域特性や資源を尊重して策定します。

第2章 新市のまちづくりの基本方向

1. 新市の将来像

新市が目指すまちづくりの決意、未来に託すメッセージ、夢といった将来像を次のようにかかげます。

自然と産業が調和し 人と人がふれあう 活力ある自立分権都市 (新市名)

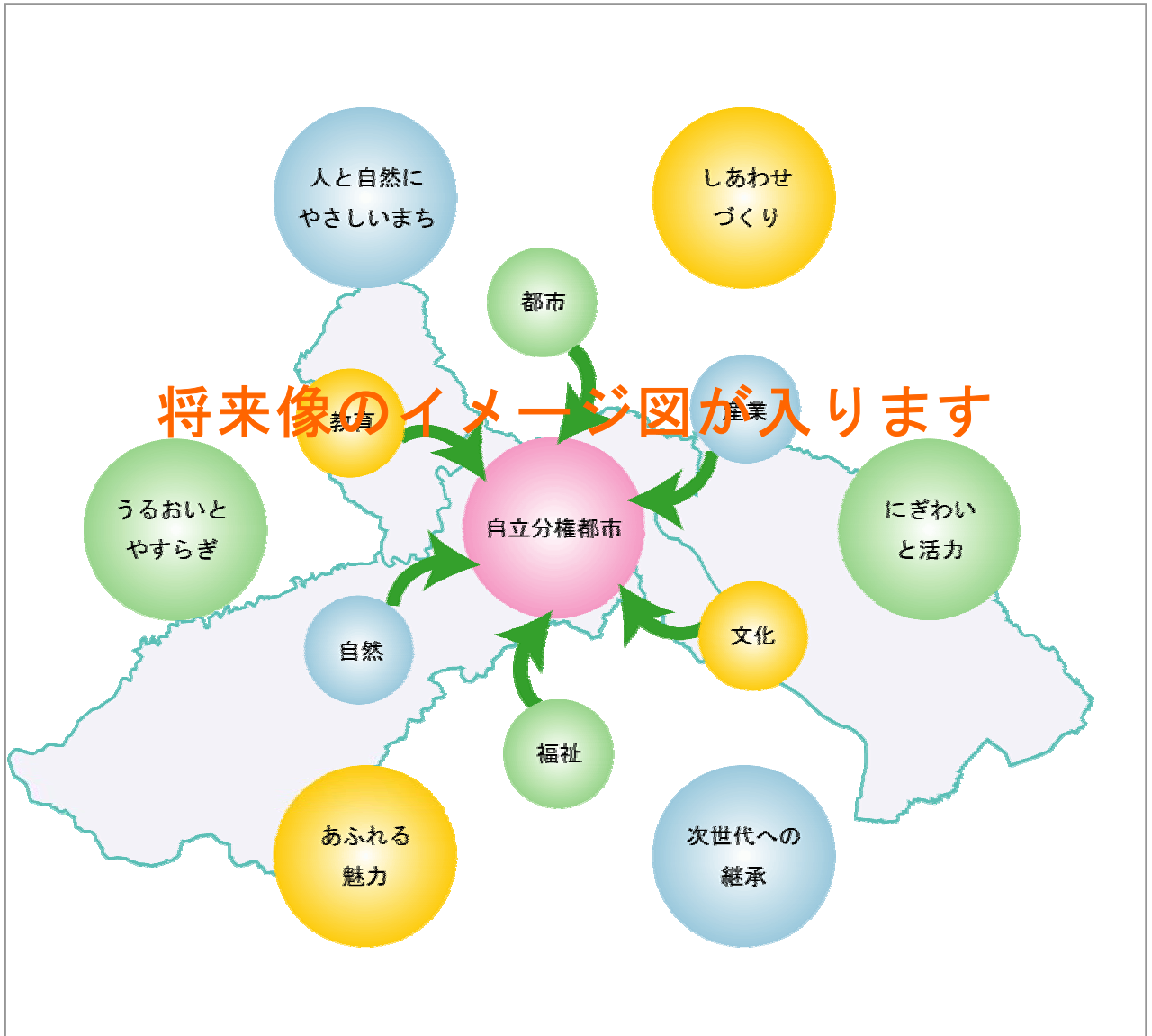
～森が育む水の水がそだてるまちの水の力
まちにいきづく人の力 地域の力と魅力を活かしたまちづくり～

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町は、
にぎわいと活力のある都市と、
うるおいとやすらぎを与えてくれる豊かな自然をあわせもつ、
魅力あふれる新しい都市になろうとしています

水源の森を育み、
首都圏における広域的な拠点として、
産業・文化をリードし、
さらに豊かで、個性ある都市として発展を図り、
政令指定都市を目指した新しいまちづくりにチャレンジします

そして、
人と自然にやさしいまちとして、
市民一人ひとりが、しあわせをつくる場へと
さらに進化させることにより、
心の豊かさを実感する
次世代に誇れるまちづくりを進めます

新市の将来像のイメージ



2. 合併シンボルプロジェクト

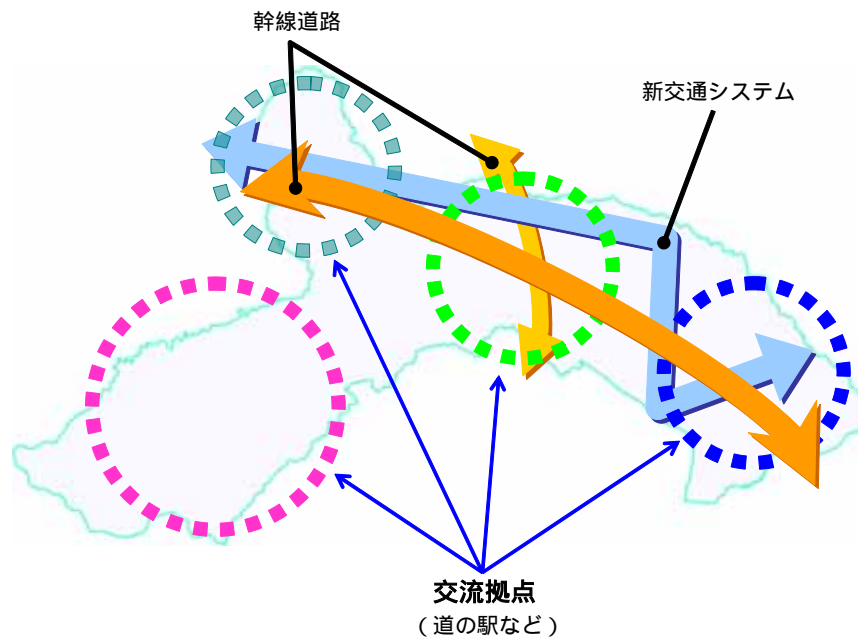
新市の将来像の実現に向けて、合併した場合のシンボルとして考えられるプロジェクトです。

1. 地域連結夢プロジェクト

新市の生活や経済の活性化を支え、広域的な「市民の交流」「新市の情報発信」の充実を進めるためのインフラとして、幹線道路の早期実現、道の駅の整備、新交通システムの実現を図ります。

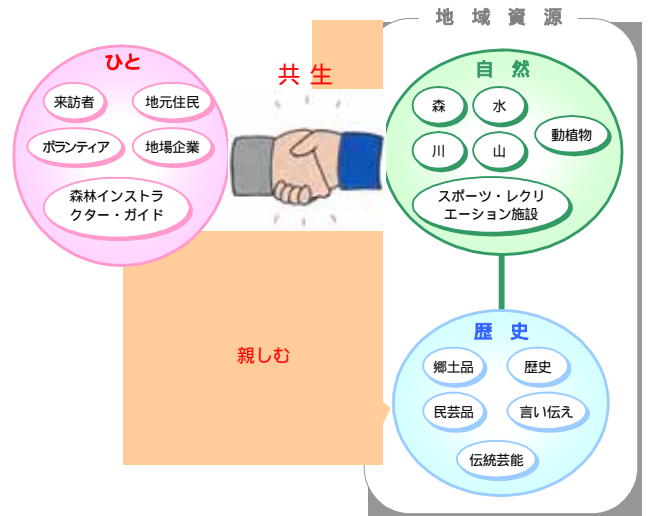
これにより、地域の交通の利便性、快適性の向上を推進します。同時に新市の一体化を図ります。

- ・津久井広域道路、さがみ縦貫道路の早期完成の実現
- ・津久井広域道路、さがみ縦貫道路への「日本一の道の駅」設置の検討
- ・地域内を結ぶ生活道路の充実
- ・道路景観の改善
- ・新交通システム（モノレール、路面電車など）導入の検討



2 . 市民のオアシスプロジェクト

“市民のオアシス”として憩いのある新市づくりを進めます。このため、水源地域の山、川、湖などの優れた自然や地域固有の風土・文化を守るとともに、これらの活用を図ります。さらにゼロエミッションの取組みを推進し、環境に優しいまちづくりを進めます。

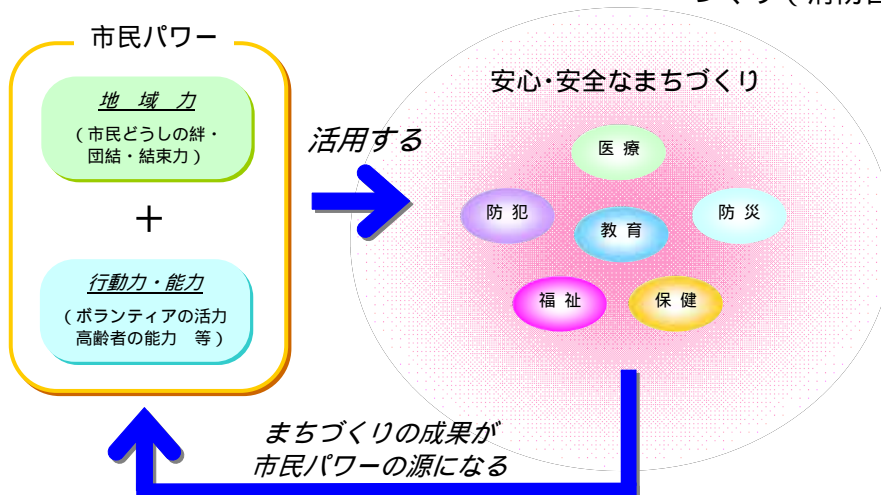


- ・ 自然の保全と活用のための取組み
(山、川、湖の保全と活用、森林ボランティア、クリーンな水の確保等)
- ・ 自然体験拠点づくり
(特産品の生産、自然体験学習、体験型レクリエーション施設の充実)
- ・ ゼロエミッション推進 (環境型自治体づくり)
- ・ 地域の文化シンボルづくり

3 . 安全・安心ネットワークプロジェクト

全ての市民の生活にとって、安全・安心なまちづくりを進めます。このため、保健、医療、福祉の充実を図ります。また、コミュニティ社会の強化を図り、住民自らが地域を監視し、守るシステムを形成します。

- ・ 新市内における、地区ごとの社会福祉協議会の設置
- ・ 市、市民による福祉サービス等の充実
- ・ 自治会、町内会の支援による地域コミュニティの強化
- ・ 地域コミュニティ・ボランティアパワーを活かした総合セーフティーネットワークづくり (消防団など)

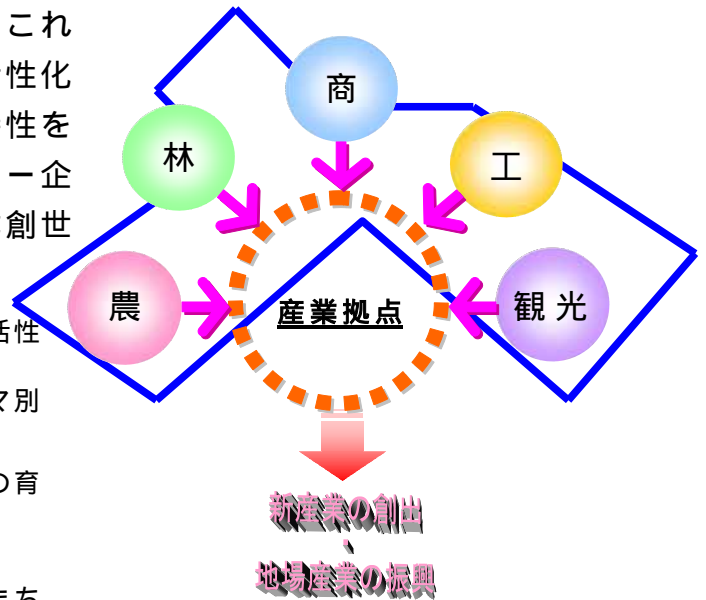


4 . まち + 水源地 = 産業創世プロジェクト

新市は、まち（都市部）と水源地を併せ持ちます。

このため、それぞれの個性を活かした多様なイベント展開などを図ります。これにより、従来の商店街や観光地の活性化を目指します。また、新たな地域特性を活かし、先端科学産業や、ベンチャー企業の誘致、育成を進め、新市の産業創世にとりくみます。

- ・ 商店街、水源地、観光地での個性ある活性化イベントの開催
（イベントの連携開催、通年開催、テーマ別開催）
- ・ 先端科学産業の創世、ベンチャー企業の育成
（ベンチャーアパートの整備等）
- ・ 魅力ある商店街、美しい水源地などのまちづくりの推進（修景対策など）

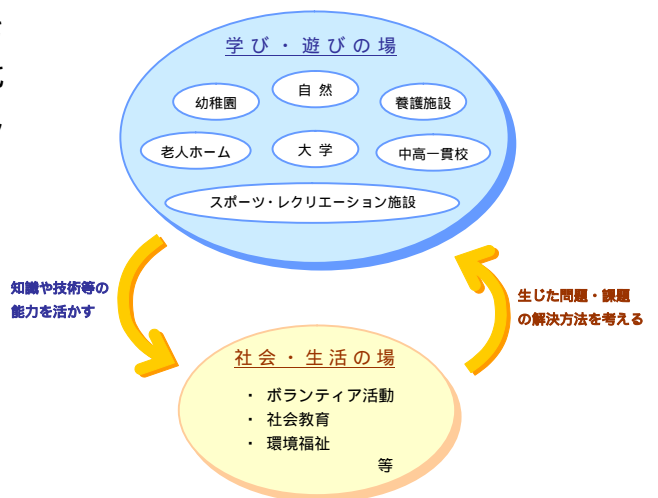


5 . 市民キャンパスプロジェクト

豊かな心を育て、確かな学力と教養を得ることが出来る環境づくりを進めます。このため、子どもから大人まで、あらゆる人が生涯にわたって学べる機会を提供します。これにより、生涯現役時代にふさわしい“生涯学習都市”を目指します。

- ・ 市立大学の創設
（農林学部等の自然を生かした学部の創設）
- ・ 中高一貫モデル校づくり
- ・ 幼稚園と保育園の一元化
- ・ 生涯学習施設の整備
- ・ 高齢者の能力を活用した生涯学習機会の充実
（伝統工芸、環境教育など）
- ・ 地域社会に貢献するボランティアの育成

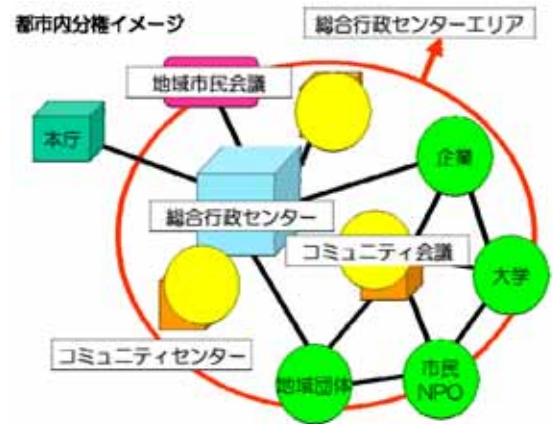
市民キャンパス（イメージ）



6. パートナシップ都市内分権プロジェクト

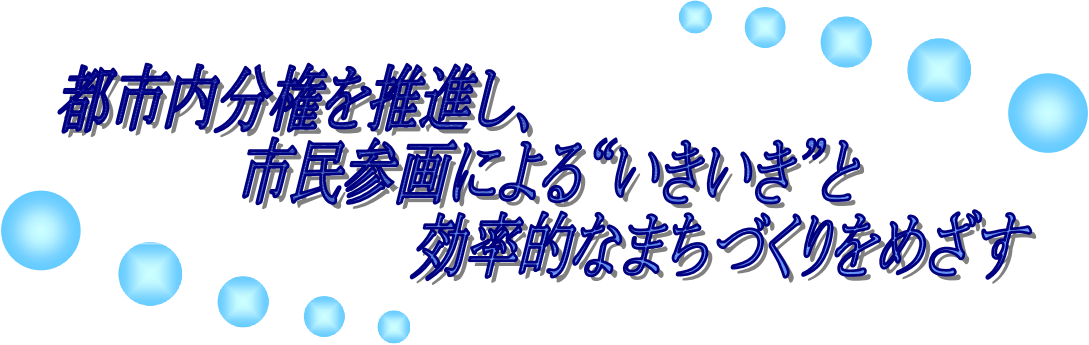
新市の振興及びバランスある発展を目指します。このため、都市内分権（分権型社会）を実現し、市民や民間団体、企業など地域社会を構成する様々な主体の協働により、自立的、持続的なまちづくりを実現します。

- ・全市的地域自治区の設置（地域コミュニティ会議，市民評議員制度の創設等）
- ・自治区における特定事項（防災、防犯、福祉等）に関する裁量権の保持
- ・ITを活用した市民参画の制度の確立と行政の効率化（IT拠点の設置）
- ・まちづくりのための市民ボランティアの活用・養成



【出典：さがみはら都市みらい研究所 HP】

3. まちづくりの進め方



**都市内分権を推進し、
市民参画による“いきいき”と
効率的なまちづくりをめざす**

地方分権時代にふさわしい新市を創っていくためには、市民参画によるまちづくりと効率的な行財政運営を推進することが不可欠です。市民一人ひとりがいきいきと暮らすためには、自らがまちづくりに関わりを持つとともに、行政は市民の多様なニーズに的確に対応した行財政運営を推進することが重要となります。そのためには、市民一人ひとりが意識を変え、同時に行政も変わることが必要です。

このため、地域コミュニティの育成や、期待される自治会等の、まちづくりを行う多様な主体の活動を推進し、市民同士が支え助け合う地域社会を形成します。そして、行政と市民とのパートナーシップの構築、ボランティア活動の推進など、市民の声が市政に反映され、自らもまちづくりに参画する主体的で開かれたまちづくりを目指します。

これを実現するためには、拡大する都市規模に見合った、都市内分権を進めていかなければならず、本庁に集中している権限を地域に分散させ、それに見合った形での全市域を対象とした地域コミュニティの再編成が不可欠です。合併の効果を高め、新市の一体性を高めるために、一定の移行期間を経た上で、旧自治体区域にこだわらない、新しい地域区画に基づく都市内分権を進めます。そのためにも、改正地方自治法上の全市的な地域自治区の導入を推進いたします。

行財政では、行政や議会における市民参画による抜本的な見直しを行い、本来的に市民にとって必要な行政サービスの充実、数値目標設定ある行政コストの削減、情報公開の推進等を図り、市民一人ひとりが納得しうる質の高い市政運営に努めます。

◆まちづくりの進め方の視点 1－市民参画

誰もが住みよい地域社会をつくるため、市民一人ひとりが支え助け合い、地域が自立したコミュニティ社会を形成するために、全市域で都市内分権型のまちづくりを進めます。そのために、行政は市民とのパートナーシップに基づき、広報・広聴活動の推進に努め、全市的な地域自治区の支援の考え方や男女共同参画の理念をふまえ、市民の市政への参画機会を拡充します。

➤市民の行政への参画機会の拡充、協働の推進

- ・市民自ら行動する地域づくり、地域で支え合う仕組みの構築
- ・市内在住の多様な能力を持った人材の活用
- ・市民評議員制度、地域コミュニティ会議など参画、協働を推進するための制度の創設

➤都市内分権による新しい地域自治の充実

- ・地域コミュニティ活動の促進
- ・地域コミュニティ機能を支える組織づくり
- ・地域コミュニティや市民活動の支援
- ・まちづくりをする多様な主体の育成
- ・「ボランティアの活用」の仕組みの構築



◆まちづくりの進め方の視点 2－行財政

市民一人ひとりが納得しうる質の高い市政運営を行うために、効率的な目標ある行財政改革、行政職員の意識改革、情報公開の推進、近隣市町村との連携などに努めます。

➤効率的な行財政運営

- ・行政と地域との協働（協働型市役所）
- ・長期的視点に立った数値目標のある財政の健全化、効率的財政運営
- ・公共施設の適正配置

➤行政サービスの充実

- ・新たな行政ニーズに対応した取組みの推進（改革への意識向上）
- ・ITを活用した電子市役所化の推進（先進型電子市役所）

➤適正な人員管理

- ・行政職員の能力の向上
- ・職員規模の適正化

➤情報公開等の推進

- ・行財政の情報公開、行政の説明責任、行政評価の規程化

➤広域連携の推進

- ・町田市等との連携の検討

第3章 まちづくりの目標

新市の将来像を実現するためのまちづくりの目標などをまとめました。
以下の項目で示します。

項 目	内 容
まちづくりの目標	将来像を実現するための4つの目標
分野	目標を体系的に整理するための9つの分野 交通 都市基盤 自然・環境 産業 観光 土地利用 教育・文化 保健・医療・福祉 安全・安心
分野別方針	目標達成のための分野ごとの方針
施策の方向性	分野ごとの施策の方向性
主要な施策例	施策の方向性に沿った主な施策

まちづくりの目標

交通、都市基盤

*人、自然、産業、文化...新しい都市の交流と発展を支える、
資源を生かした質の高い交通・都市基盤をめざす*

都市の健全な発展と市民生活の利便性や快適性の向上、そして人、自然、産業、文化など様々な交流の架け橋という観点から、骨格となる交通網の強化と質の高い都市基盤の整備が重要となります。また、その整備にあたっては、新市の発展を支える基盤づくりを前提に、新たな整備だけでなく既存の資源を工夫して活かすことも重要です。

このため、さがみ縦貫道路、津久井広域道路等の早期整備を図るとともに、鉄道輸送・バスネットワークの強化、新交通システムの導入等に取り組むことにより、国道を中心とした交通渋滞の解消と、高齢化や日常生活圏の拡大に伴う多様な交通ニーズに対応した公共交通網の確立を目指します。また、水源地域の保全に向けた上下水道の整備等を進めるとともに、情報基盤の整備や美しい景観の形成等を進め、快適で魅力ある居住環境の創造を目指します。

分野別方針 - 交通

さがみ縦貫道路、津久井広域道路等の骨格幹線道路網の早期整備を図るとともに、鉄道輸送、バスネットワークの強化、新しい交通システムの導入等に取り組むことにより、国道を中心とした交通渋滞の解消と、高齢化や日常生活圏の拡大に伴う多様な交通ニーズに対応した公共交通網の確立を目指します。

また新市内の連携を強め、人と自然・産業・文化の多様で活発な交流による都市の発展を促すため、新市内を円滑に結ぶ骨格的な交通網の整備を進めるとともに、自然と調和した人に優しく利便性の高い道づくりに努めます。

施策の方向性	主要な施策例
骨格幹線道路網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利便性の高い体系的な道路網の整備（津久井広域道路、さがみ縦貫道路の早期整備） ・ 防災面に配慮した道路網の整備 ・ 地域内幹線道路の整備
公共交通網の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津久井地域への鉄道の延伸の促進 ・ 鉄道の輸送力の確保（夜間など） ・ リニア中央新幹線の新駅誘致 ・ バス交通のネットワークの確立 ・ パークアンドライドの検討 ・ コミューター空港の整備
新しい交通システムの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい交通システムの整備検討（交通手段の転換と交通軸の形成）
人に優しいみちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観に配慮した道路整備 ・ 交通弱者に配慮した道路整備 ・ 身近な生活道路の整備

分野別方針 - 交通、都市基盤

分野別方針 - 都市基盤

産業・情報基盤の整備、美しい景観の形成、公園整備等を進めるとともに、水源地域の水環境の保全に向けた上下水道の整備等を進め、快適で魅力ある居住環境の創造を目指します。また、相模川以東の活力ある市街地と相模川以西の豊かな自然とが共存する本地域においては、自然環境や文化と調和した質の高い都市基盤整備を進め、将来にわたって市民が真に豊かな生活を享受することができるまちづくりに取り組みます。

施策の方向性	主要な施策例
水源地域としての 上下水道の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性に配慮した総合的な排水対策の推進 ・より良い給水サービス体制の確立（安定した飲料水の確保など）
都市緑化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な公園の整備（街区公園、近隣公園等） ・市街地の緑化の推進（屋上緑化等）
良好な住まい方のルールづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な居住環境の創造
美しい景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の風景や身近な緑を生かしたうるおいある都市景観づくり
高度情報化基盤の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> ・情報インフラの整備推進

分野別方針 - 交通、都市基盤

まちづくりの目標

自然・環境

自然の豊かさを日常的に感じるまちをめざす

新市の西側は、広大な森林や清流、湖など緑豊かな自然環境に恵まれた地域であり、かつ、神奈川県の水源地域となっています。また、自然と都市の融合や、自然と人との共生をまちづくりの基本に、自然を資源として地場産業づくりなどに活かしつつ、日常的に暮らしの中で自然を身近に感じられるようにすることにより、ひとびとの自然に対する意識をより、深いものとするのが求められています。

このため、水源涵養、治水、保健休養等の森林の有する多面的、公益的な機能に配慮した保全方策を推進するとともに、自然環境に対する意識の啓発を図ります。さらに、河川・湖の水質の向上を図り、水源地域の総合的な環境の向上を目指します。

また、市街地とその周辺においても、相模川や里山、谷戸などの貴重な水辺や緑が残っており、市街地での良好な緑の形成により、都市内部でも自然を感じられるうるおいと風格のあるまちづくりを目指します。

分野別方針 - 自然・環境

新市は森林と清流と湖に恵まれた広大で豊かな自然を有しており、神奈川県の水源地域としても重要な役割を担っています。そのため、森林の

持つ価値を再評価し、市民生活や地域文化、経済活動等を支える貴重な財産であると同時に資源として、水源地域の自然の保全と活用に努めるとともに、市街地やその周辺に残る貴重な水辺や緑の保全に取り組み、自然と共存する地域づくりに取り組みます。

施策の方向性	主要な施策例
自然環境の保全、創造、活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の価値の再評価（資源としての活用等） ・ 自然（山、里山、湖、川）の体験機会の創出 ・ 地域の特性をPRできる野生生物（動物、植物など）の保護育成 ・ 森林ボランティア参加による自然、森林の保全 ・ 市街地にある緑の保全と活用
水源地域の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水源地の保全
河川環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の水質の向上 ・ 生態系や人とのふれあいに配慮した河川環境づくり ・ 相模川の水辺景観の保全修景
湖環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖の水質向上（曝気等） ・ 湖面水際のごみ対策の推進 ・ 湖周辺の水辺景観の保全と育成 ・ 湖面に近づける親水空間の整備
里山・谷戸環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山の保全と再生
ごみ対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源循環型都市の実現（ごみの減量化・資源化の推進、不法投棄対策の充実等）

分野別方針 - 自然・環境

まちづくりの目標

産業、観光、土地利用

地域経済を支えるために自然環境と調和し、
地域特性を活かした産業創生をめざす

新市の活力ある発展とゆとりある豊かな市民生活の実現には、多様な産業の振興と計画的な土地利用の推進が重要となります。また、バランスのとれた産業構造の実現のために、市民、企業、行政が連携して取り組む事も重要です。

このため、首都圏近郊で水源地を有する豊かな自然環境の立地特性を活かした工業や農林業、観光の振興とともに、市内での生活の核となる商店街、商業施設等の活性化を図り、地域経済の発展と魅

力ある観光拠点の形成を目指します。また、さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備を踏まえた計画的な土地利用を進め、市街地の高度利用や農林地域での適切な土地利用により、良好な居住環境の創造と秩序ある都市の発展を目指します。

分野別方針 - 産業

首都圏近郊にあり、豊かな自然環境を有するという立地特性と、優秀な技術力を活かし、新たな産業の創出を図るとともに雇用機会の増大を目指します。また、市内での生活の核となる商店街、商業施設等の活性化や農林業の担い手育成、観光、商業との連携により個性的で多様な産業の振興を図ります。

施策の方向性	主要な施策例
新たな産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな社会経済の変化に対応できる地場産業の育成 ・ベンチャー企業の育成 ・農、工、商の連携の推進 ・新産業拠点の形成、企業立地のための基盤整備及び誘致活動の推進 ・環境共生型の企業の誘致 (水源地での排水規制等への適応) ・地域の立地特性を活かした産業の振興 ・物流拠点の整備 ・時代を見越した産業の支援 ・コミュニティビジネスの促進 ・産業用地の保全と創出
経営資源(技術等)の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的かつグローバルな変化への対応
農林業の振興、担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤強化、担い手育成等に向けた農地の活用や保全の促進 ・農地の違反転用、不法投棄防止対策の促進 ・遊休農地等の利用促進 ・荒廃山林の管理の推進 ・地域の観光、商業との連携(特産品の開発) ・林間大学研修施設の誘致 ・商業等との連携による新都市農業の推進 ・農道、林道の整備
商業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある商業地の形成 ・中心市街地(橋本、相模大野)の活性化 ・地域コミュニティの核となる商店街の活性化
雇用対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・就労機会の拡大

分野別方針 - 産業、観光、土地利用

分野別方針 - 観光

津久井地域の四季折々の雄大な景観を育む森林や相模湖、津久井湖、城山湖、宮ヶ瀬湖などの自然資源を活かした観光産業を育成するとともに、都市型観光の推進を図ります。さらに観光拠点の連携を強化し、多様な余暇ニーズに応えることができる、やすらぎと賑わいのある観光地づくりを進めます。

施策の方向性	主要な施策例
観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点へのアクセス性の向上 ・自然を活かした観光産業の育成、PRの推進 ・観光イベントの実施（スポーツ、教育等） ・いきがい農園、観光農園の推進 ・自然探検教室、フリースクールの推進
自然を活かしたレクリエーションの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・津久井地域の自然を活かした体験型レクリエーションの充実 ・川、湖の観光利用の推進 ・歴史、遺跡、地場産業などを活かしたエコミュージアムの展開

分野別方針 - 産業、観光、土地利用

分野別方針 - 土地利用

さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備を踏まえた計画的な土地利用を進めるとともに、中心地及び市内各地域の市街地での高度利用、新市全体での効率的かつ秩序ある土地利用などにより、良好な居住環境の創造と新たな産業立地も進め、特色ある地域の発展を目指します。

施策の方向性	主要な施策例
計画的で秩序ある土地利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が一体となる地域拠点の強化 ・さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備に対応した土地利用の推進 ・自然環境、住環境保全のための規制、誘導 ・自然環境と共存した土地利用の推進 ・水源地域や農地の土地利用規制の改正と効果的な運用
特色のある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の個性にあったまちづくり、都市景観づくり

施策の方向性	主要な施策例
駅前密集市街地の改善	<ul style="list-style-type: none"> 相模大野駅、小田急相模原駅周辺の都市機能の充実や住環境整備のための集合化の促進 相模湖駅前市街地の環境、景観の改善
米軍基地対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 都市、交通網を遮断する米軍基地対策の推進

分野別方針 - 産業、観光、土地利用

まちづくりの目標 **教育・文化、保健・医療・福祉、安全・安心**
*心の豊かさを育み、安心して生き生きとした
 市民生活の実現をめざす*

生き生きとした安心・安全な市民生活を実現するためには、心豊かな人にやさしいユニバーサルなまちづくりが重要となります。

このため、教育環境の充実や自然、文化の活用による人間性豊かな教育の実現とともに、医療機関や福祉施設と家庭、地域とが連携した保健・医療・福祉体制の確立により、市民だれもが安心して生活できる地域社会の形成を目指します。

また、市街地から山間部までの行き届いた防災・防犯対策を進め、市民が安全に生活できるまちづくりを目指します。

分野別方針 - 教育・文化

豊かな人間性を育むために、ライフステージに応じた教育・学習機会の充実、支援及び学習・文化・スポーツ施設の整備、活用を図るとともに、スポーツ・レクリエーションの振興に努めます。また、伝統的行事の継承や文化財などの保護、活用に努めるなど、個性ある生涯学習都市を目指します。

施策の方向性	主要な施策例
幼児教育の充実及び多様化	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の教育活動、教育環境の充実 幼稚園における子育て支援の充実 就学前の教育、保育を一体化した総合施設の検討
学校教育の充実及び多様化	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級の実現 特色ある教育の推進（中高一貫教育の推進、全寮制等） 地域の実情を踏まえた学校規模適正化の推進
学校施設等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化、情報化への対応など学校施設の整備 学校給食の在り方の検討

施策の方向性	主要な施策例
生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活圏できめ細かに学習できる場づくり 生涯学習講座の開催、PR 生涯学習に対応した施設の充実
青少年教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の集える場づくり 地域の良さを活かす教育の推進
スポーツ・レクリエーションの振興	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーション施設の整備、運営の推進
文化施設の整備及び活用	<ul style="list-style-type: none"> 既存文化施設の再編、統廃合による費用対効果の向上 新市に対応した市立博物館（相模原市立博物館）の運営 津久井地域への文化施設の配置 文化施設の利用者増に向けた積極的な取り組みの推進
伝統的行事、文化財の保護及び活用	<ul style="list-style-type: none"> 祭り等の伝統的行事の保護、育成 郷土の歴史、偉大な先人、伝統ある産業、行事等の共有財産としての保護 歴史、遺跡、地場産業などを活かしたエコミュージアムの展開
国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍市民への支援と交流の機会充実（内なる国際交流） 友好都市交流を通じた国際理解の推進

分野別方針 - 教育・文化、保健・医療・福祉、安全・安心

分野別方針 - 保健・医療・福祉

家庭を取り巻く環境が大きく変化している中、市民誰もが安心して幸せな生活をおくることができるよう、健康づくりや健やかな子育て環境づくりに努めるとともに、高齢者や障害者の生活支援と社会参加に対して、思いやりを持って助け合う地域社会の形成に取り組みます。

施策の方向性	主要な施策例
医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域における医療体制の充実 専門的な医療体制の充実 救急時における医療体制の充実 健康づくりの推進 保健サービスの充実
児童・母子（父子）福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> 出産に関する助成制度等の検討（出産費用の拡大への対応） 子どもに対する医療体制の充実（医療費補助） 仕事と子育ての両立が図れる保育環境の充実 保育所・児童クラブの待機児童解消 ひとり親家庭への援護対策の推進

施策の方向性	主要な施策例
高齢者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉施設の充実 ・生きがい農園、あじさい大学への参加機会の拡充
障害者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児への支援強化、障害者施設の整備・充実
地域福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進 ・総合的な福祉施策の推進 ・地域で助け合う福祉活動の推進 ・助け合う地域コミュニティの形成
援護を要する人の福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援の推進 ・雇用対策の充実
健康づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる健康づくりの推進 ・快適で安全な生活環境づくりの推進 ・より良い生活環境への改善

分野別方針 - 教育・文化、保健・医療・福祉、安全・安心

分野別方針 - 安全・安心

市街地から山間部に至るまでの災害等に対する基盤整備や、消防、救急救助体制など、ハード、ソフト両面の防災対策を推進し、市民の生命と財産を守ります。また、公害防止対策や地域社会の変容に伴う防犯対策などを進め、市民が安心して生活できるまちづくりを目指します。

施策の方向性	主要な施策例
防災対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、他自治体との連携による総合的な防災対策の実施 ・自主防災組織等、地域での防災ネットワークづくり
治山・治水対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水害対策の推進 ・防災、安全に配慮した河川整備の推進 ・水害対策、土砂対策の推進 ・急傾斜地等における崩壊対策の推進
消防体制の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> ・消防、救急救助体制の強化
公害防止対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通公害対策の推進 ・大気環境等の負荷の低減化
防犯対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・警察との連携強化 ・地域での防犯ネットワークづくり ・防犯灯の設置推進
安全な消費生活の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・相談体制の確立と被害未然防止対策の推進

分野別方針 - 教育・文化、保健・医療・福祉、安全・安心

補章 まちづくりの検討課題

1. 1市3町の地域特性や資源に関する意見

ビジョンを検討するにあたって、タウンウォッチングなどにより各市町の地域特性、資源や課題などについて把握し、意見を出し合いました。

各委員から出された、1市3町の地域特性、資源や課題に関する意見を次の分野ごとに整理しました。

地域特性、資源の分野区分

項目	分野
1	(1)交通
	(2)都市基盤
2	(1)自然・環境
3	(1)産業・観光
	(2)土地利用
4	(1)教育・文化
	(2)健康・福祉
	(3)安全・安心
5	(1)参加・協働
	(2)行財政

地域特性、資源 1 【(1)交通】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(1/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 交通の便がよい。都内や横浜への周辺アクセスがよい 周囲を鉄道網に囲まれているので、外の地域に出るのに便利。横浜線、相模線、京王線、小田急線という電車網が老若男女を問わず、生活の向上に貢献している。橋本近辺はどこに行くにも便利 R16は、市内へ出かけるときの基準となり解りやすい バス交通が充実している 自転車を使えば便利である 道路、歩道の整備が比較的良好である。駐車場が充実している</p> <p>【課題】 相模原の道路は主要なもののほど渋滞している。土日の交通渋滞が多い ... R16～R246、相模原R16の東部 自動車による交通渋滞、騒音、排気ガスが深刻である 駅前が雑然としており、交通渋滞が慢性化している。違法駐車も多い 相模原の中央部に公共交通が少ない 市域内のバス交通ネットワークが悪く、バスの本数が少ない。バス路線が減っている R16は自転車交通や、歩行者対策、美観、サインは不十分である R16は全線3車線にして、右左折レーンを増やす必要を感じる 繁華街等での路上駐車が多数(駐車スペースが少ない、車は市民の必需品)</p>	<p>【良いところ】 近い将来さがみ縦貫道路が開通する 交通量が比較的少なく、騒音なども小さく静かである 各方面の行楽地へのアクセスもそこそこ良い</p> <p>【課題】 通勤ラッシュ、土日ともなるとR413の混雑がすごい、周辺生活道路にも迂回車が進入してくる、自転車の走りづらい国道がまだある ...久保沢～R412～三ヶ木間 ...津久井日赤～久保沢 合併後の広さと交通網の充実整備の必要性を実感。交通渋滞解消、観光拡充のためにも津久井広域道路とさがみ縦貫道路の早期実現が重要 交通アクセスが悪い。ターミナル駅から遠い バス便が不便・所要時間不安定 電線の地中化が一部だけでもできないものか</p> <p>【課題】 特に津久井3町は交通の便が悪い 交通～不便と観光産業にも役立つように橋本駅を起点に軌道で津久井地区方面に敷く。モノレール等</p>	<p>【良いところ】 幹線道路(R412、R413)が、産業、観光、通勤、通学にフルに活用されている 高速道路のインターが近い 京浜、相模原、八王子、町田地区へ通勤可能</p> <p>【課題】 幹線道路であるR412とR413の慢性的渋滞(幹線道路がこの2線しかない)新小倉橋開通で緩和された部分もあるが、一部だけである ...久保沢～R412～三ヶ木間 ...津久井日赤～久保沢 幹線道路から生活道路に入ると狭い 交通が不便。定期バスの本数が少ない。津久井街道は、慢性渋滞している 電車がないので、通勤・通学に支障がある 駅から遠い、自動車がなくては不便。橋本まで遠く、通勤が大変に思う 津久井に鉄道がないことから、車が多い 地下鉄での京王線乗り入れ、または、モノレールによる相模湖への連絡</p>	<p>【良いところ】 中央高速道路、インターチェンジがあり便利 R20(甲州街道)R412がある JR中央本線が通っている。駅がある。最近では東京直通が多いので便利</p> <p>【課題】 橋が多いため渋滞(特に通勤時間帯)が発生し時間がかかる。休日の交通渋滞 ...相模湖(R412、R413、R16)～相模原まで全部 ...相模湖駅(R20)、駅前の四つ角の渋滞 ...相模湖インターでR413が混雑する 高速が相模原までこない 道が狭い。歩道の整備等が遅れている 夜間の電車本数が少ないため不便 山坂でバス停までの時間がかかる。バス路線が少ないため、老人等にとっては不便 駅前タクシーが独占2台しかないため、全く使えぬことがしばしばある</p>

良いところ 課題

地域特性、資源 1 【(2)都市基盤】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(2/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】</p> <p>地方都市として一定の設備が整っている 橋本地区は駅を中心に、出張所、幼稚園、小・中・高等学校、病院、商店等、徒歩圏内に生活する上での望む以上のものが整備されている 色々な公共施設(文化、スポーツ等)が充実している それぞれ個性をもった施設群を拠点的につくっているのはよいと思う。それぞれが森になっている 下水道が完備されている 市の中心地の区画整理は見事。街路樹の緑も素晴らしい 都市公園、木もれびの森、桜並木などの緑が多い 緑道、散策道が整備されている 都市公園が多く整備されている。気持ちが良い レクリエーション施設が充実している スポーツ施設がある公園が充実している 大型の施設の完備、温水プール、スケートリンク、音楽用ホール、野球場等 市立総合体育館の施設規模は中央体育館として十分。市内施設からの情報発信、中核機能の充実などが大切。レストランも大規模体育館施設にはうってつけ。(自由に十分稼がせて)経営に資する使用料・収入を得てはどうか 総合水泳場(さがみはらグリーンプール)は、よく整備された環境の良いプール。多くの市民が活用出来る場にしたい。費用がかかってもこの様な設備は必要 グリーントワーは、唯一、相模原市内全域を見られるスポットである。麻溝公園も広大な敷地でとても美しい 南清掃工場の周辺対策、景観対策も良く、静かな工場だと思った 主要ポイントや街中かなりあじさいが目立ち、特徴となっている。(ちょうどシーズンであるせいか) 都市ガスは便利である ひばり放送がある 米軍基地は、交流があり様々な体験ができる</p>	<p>【良いところ】</p> <p>町の施設が充実している 自然も多く、スポーツのできるグラウンドが充実し、各自治会や青少年育成会組織を土台とする町の体制がしっかりしていて高齢者、成人、子供達への環境づくりに力をいれている 小倉橋でのこだまプール開場、キャンプが近場ごみ置き場がきれい。ごみの収集も徹底されていて衛生的にも住みやすい</p> <p>【課題】</p> <p>R412、R413 沿道の修景対策を地域住民と行政が協力して実施したい。修景対策懇談会をまず作る(特に建設関係、自動車関係業者の景観意識の向上が商業振興上も必要か) 情報インフラの整備は進んでいるとは言えない</p>	<p>【良いところ】</p> <p>町の施設などの使用料が安い(無料) 町営の住宅が格安で入居可</p> <p>【課題】</p> <p>合併処理槽利用者と下水道利用者との不公平感がある ごみ、し尿を各々1町ごとには出来ず、4町共同で行っているという事はやはり地域性・結束力を感じた。分別や回収日も相模原とは違いますので慣れるまで大変かもしれません ごみ処理は合併の大きな課題となっているはずなのに、なぜ有料化をしないのだろうか。これは全国的な課題であり、有料化の流れが普通だと思う 光通信網が来ていない。インターネット環境が悪い 有線TV 相模原市の上大島の施設などは、本来なら津久井町に造るべきであった 中途半端な総合グラウンドが複数ある 主要銀行がない</p>	<p>【良いところ】</p> <p>公共機関、施設、道路、交通機関等が小自治体としては整っている 1人当りごみ排出量が少ない 住民運動で光ファイバーが通った 町の随所にフラワーポットなどがおかれ、心なごむ</p> <p>【課題】</p> <p>相模湖町の少子高齢化が進み、子供が少なく、町の活性化がはかれない。まちづくりが消極的である ポイ捨てが多い。水源地の割にゴミの不法投棄、廃屋、廃品。リサイクル、野晒しが目立ち不潔感あり 子供が遊べる公園が少ない 都市銀行がない</p>
<p>【課題】</p> <p>下水道の未整備。水源地として整備急務</p>			

【課題】

歴史の浅い「まち」なので、落ち着いた風格、風情が足りない
まちのづくり、雰囲気には深みを感じられず、外部から訪れたいと思わせる「まち」の魅力が少ない
これ以上の箱物は不要、維持費が無駄では
都市ガスが整備されていない
公営住宅が市民ニーズを満たせない(不足、狭い)
公共サイン(案内)がわかりづらい
ごみ減量を更に進めることが重要である。ポリ袋等不要の買物
南清掃工場
...施設の古さを感じた。H18年に新しい施設が着工予定との説明があり心強く思った。
...改築にあたっては、他施設、周辺ごみ状況、制度面、総合的に考慮した対応を願いたい
...津久井郡の焼却炉の総合化を図り人員の削減が可能(3ヶ所での能力要検討)
市民一人当たりの公園面積は少なく、都市公園が全体的に不足。近くに子供を遊ばせるような公園だけがない
都市公園は良く整備されているが、観光資源や奥座敷的地域がない。市街地もやや都市景観に欠ける地域が多い
総合水泳場(さがみはらグリーンプール)
...経費削減と収入増に更に工夫が必要
...こういう施設は「自ら来る人」だけの施設ではなくそうでない人も引き込んで活用していくそんな施策が必要(市民の健康増進)
...体力測定等のサービス(回数券サービス等)研究して経費減向上を図る
...市民選手権、年齢別記録大会等実施 PR 希望

地域特性、資源 2 【(1)自然・環境】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(3/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 自然が残っている 相模川などの水辺空間のオープンスペースが確保されている 北相の中心地にふさわしい市街地と斜面緑地を大切にしているのは気持ちが良い 60万人都市の割には緑が多いのが特徴。この緑を大切にしていかなければならない 合併後は更に緑が増える。この対策をどの様にするかが大切</p> <p>【課題】 山や川、森林等の自然に親しめる環境に乏しい。「自然」らしい自然がない ビルばかりで、河川敷まで人工的である</p>	<p>【良いところ】 自然環境(森林、城山湖、相模川)に恵まれている。空気がきれい 水源地を持っている 町の森林財産区がある 山の散策と山の幸を楽しめる 小松や城北地区の里山・谷戸の環境・風景は貴重 葉山島の水田景観が良好 人口の割に、自然が残っている。居住と自然とが上手く別けられている</p> <p>【課題】 山、湖の自然環境をいま少し活かさないか 津久井街道沿いも飲食店等が建ち並び、町の姿がかわりつつある。あまり、自然が破壊されると城山本来の良さが失われる 河川にゴミを捨てられやすい 境川の汚濁がある。町田、相模原、津久井郡で蛍の棲める川に戻す工夫が必要</p>	<p>【良いところ】 大自然、四季、里山、畑、森 自然が豊かで広がりがあり、水と空気がきれい。名実ともに広大かつ雄大な「自然・緑」。 国定公園がある 津久井湖があり、景色がよい 水源地を持っている。道志川の水源は、県内都心部へは大切な役割を果たしている。津久井湖水資源の恩恵、発電、工業、農業用水が豊富 道志川の川辺でキャンプができる。早戸川で溪流釣ができる。野山川、身近に自然がある。子供たちが自然と触れ合える 町の広大な面積と森林財産区がある</p> <p>【課題】 津久井湖を観光資源として活かしてきていない 緑や水の評価・価値が低すぎる。大切だと思ったら、それを守り育てる資本を投下すべきであり、担保価値(評価額)も高くすべきである 下水道の施工率が低い為か湖水にアオコが発生。曝気(ばっき)水質改善が急務である 津久井の自然を観光地化してしまわない活用が出来たら良い。工夫すれば多くの市民が利用できる</p>	<p>【良いところ】 みどり豊かで水、空気がきれい。県立自然公園がある 神奈川県の水源地である相模湖がある 相模湖の水のある風景は非常によい 都会から一時間の大自然 自然に恵まれ古い歴史と文化がある</p> <p>【課題】 山、湖という恵まれた自然をいま少し活かさないか 相模湖、津久井湖とも汚れている。相模湖の水面、津久井湖共に水際のゴミが目立ち近づく汚い感じである。飲料に使っているので工夫が必要 自然の破壊、世俗化 山間で冬は非常に寒い</p>
	<p>【良いところ】 豊かな自然(城山・相模湖・津久井) 津久井・相模湖の豊かな自然を守り育てなければいけない 津久井の住まい方を考える。環境に優しい暮らし方をしないといけない 津久井地域は、湖と緑が大きな財産なので、これを活かしたまちづくりが必要</p>	<p>【課題】 自然にめぐまれているのに環境に対して意識が低い 豊かな自然と住民との共存 緑が多い住環境の中で生活したい 水源地は観光資源として大切である 水源水質の保護と地域整備の発展を両立させなければならない</p>	

良いところ 課題

地域特性、資源3 【(1)産業・観光】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(4/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 農工商とりあえずひととおりそろっている。商工業が盛んで雇用の場が多い。しかも、これからの成長が期待できる。工業、商業の特性が豊か 2次、3次産業が多く就職先が多い 現産業だけではなく、新たな産業の創出への取組みがなされている 商店街が点在していて買い物に困らない。商業施設が充実している。各種大型店があり便利 買い物が近くでほぼ全て済む R16 沿道は全国でも有数の物価の安さは大切な都市機能の一つ 相模川であゆ釣場、キャンプ常設</p> <p>【課題】 農地の違法転用、不法投棄など畑地の環境が悪い 相模原市自体が大きいので商圏が大きいのでまとが絞りにくい 殆どが大型ショッピングセンター化し、従来からの商店街に活気が無い、もしくは消滅している</p>	<p>【良いところ】 工場等が多い感じ。雇用の場が多い 日常の買い物は町内で済ませることができる。ちょっと足を伸ばす感覚でデパート、専門店にも行ける R413 沿いの大型店 身近に多くのアウトドアスポットがある ...城山湖やカタクリの里、ホテル、清流の里、梅園等 ...多様なハイキングコース・ウォーキングコース 人口に対する市民農園数が多い 城山湖 ...城山湖は津久井山地への玄関口として重要 ...周遊ハイキングコースでの森林浴 ...城山湖からの眺望。相模原市内や津久井の町がよく見え、このような地点を強調し視覚的一体化を促す ...ダム周辺は人手が入っていないので良い感じ。自然を活かしてリラクゼーション・ヘルスエリアのような使い方が出来ると良い ...湖が誕生したときと変わらない自然の佇まいに心がいやされる。環境保全には充分留意しなければならない 津久井湖記念館では、津久井・相模湖のダム建設における歴史を再確認することができ、地域性を相模原市民に少しでも理解していただけたと思う</p> <p>【課題】 地場産業が弱い。職場が少ない 大きな本屋、画材屋が無いので橋本駅前まで行く町内で用事を済ます事が限られてしまう。パワーを感じない 広大な津久井3町(藤野町も将来合併は参入されるように)都市計画で自然を活かした体験型の観光開発を今後新市で進められたらよい</p>	<p>【良いところ】 地場産業(組み紐)がある 日常の買い物はスーパーが24時間オープンで便利 津久井湖公園の整備が進んでいる。期待大 相模原市に不足している市民農園が出来易い ふれあいの館は観光客が結構多い 観光開発の余地・可能性が十分にある シーズン中の登山客も結構多い 観光資源(宮ヶ瀬湖、津久井湖、城山の整備) 農産物の直販、菜園オーナー</p> <p>【課題】 荒廃山林・未利用農地が多い。景観を損ねる 津久井での働く場の確保は難しい。都心部に出るためには駅周辺への駐車場確保が必要 地場産業が弱い。職場が少ない ...かつては、有数の生糸生産地であったが、今や壊滅的な状態である 大企業がない。二次産業の欠落 企業立地の基盤が整っていないうえ、排水規制が厳しく新規立地を妨げている 誘致した産業の景気も悪く閉鎖した工場もある 商店街が中型、大型スーパーの影響もあって閑散としている。高級品の買い物は、立川、町田、八王子へ出向く 個人商店の元気がないのが寂しい。中野商店街ではシャッターの閉まっている店が多く、活気が無く、閑散としている。大型店がバイパスにあるが特色ある商店作りが必要である 津久井湖畔の観光が寂しい 尾崎記念館や郷土史資料館などあるが、何となく入りにくい。積極的に見せようとしていない 観光スポットにいっまでの道のりが長い。観光スポットによっては「あれ？」という場所もある</p>	<p>【良いところ】 無農薬、有機的農園芸に努めている住民がいる 観光・地場産業に発展可能性を感じる 相模湖の観光地、船遊び、釣、湖上祭の花火大会 ...相模湖湖上祭は人気がある花火大会 ...湖でボートに乗れる アミューズメントパーク、ピクニックランドがある 相模湖ファンともいえるべき、ボランティアや来町リピーターが多い 石老山は比較的、登りやすい。登山、ハイキング、散策路などの整備と、ガイド資料が行き届いている</p> <p>【課題】 荒れた林野が多い 町の企業と人口の少なさは将来の自立性に欠ける 中心となる産業が無い。地場産業が弱い。職場が少ない 水源地であるため、各種規制があり産業らしい産業が無い 日用品を売る店が遠く不便。町中心部に大型店(スーパー)が無い 町中心部にガソリンスタンドが無い 駅前商店街が充実していない 駅周辺商店街は毎年店舗が減っていく。もっと工夫し個人商店、商店街としての個性を出していく必要がある。地域住民ももっと個人商店に目を向けないといけない。相模湖公園の商店街は高度成長期のレトロな雰囲気徹底的に出していけば受ける 相模湖を観光資源として活かしてきれていない 相模湖の湖面利用が難しい中途半端な観光地 相模湖公園が園内、駐車場とも整備されたのに、思ったほど観光客が見られない 相模湖公園の観光客は疎らで、公園入口の食堂は廃業して汚れ放題、隣の建物もガラス窓は汚れ惨めな姿を晒している</p>

良いところ 課題

	<p>城山湖</p> <p>...城山湖周遊ハイキングコースには、売店の設備、雨宿りのひさしが欲しい</p> <p>...城山湖の周りの整備と散策路の拡充整備、PRすればもっと良くなる。サインがハイセンス、効果的だとよい</p> <p>...城山湖に行く道サイドの緑が伸びきっているので、手入れが大変。城山湖をレジャー向けに開発しては</p> <p>...城山湖で町民の森散策路にプラス森林浴を兼ねたマレットゴルフ場とレストハウスを造設したらどうか</p> <p>...城山湖の南面の眺望を活かしたい。城山地域の自然保護、レクリエーションの拠点として民間資本を入れて観光開発し、新市観光の中心地とする</p> <p>...城山湖でのスポーツイベント・市民マラソン、駅伝の開催</p> <p>...城山にケーブルリフトがあれば観光地としてメリットが出るのでは。県立津久井湖城山公園から城山へロープウェイを設置し、頂上に「シンボルタワー」をつくるなど観光設備を導入できないか</p> <p>...せっかく花や水で景観づくりをしているのに、観光センターから演歌が流れていたり、ラーメンやおみやげの旗がなびいていたりするのは問題</p> <p>津久井湖記念館</p> <p>...津久井湖記念館は負の歴史も含めてコンパクトによくまとまっているが、全体が古びている。リニューアル・PRすれば都市の地域史資料館として良い</p> <p>...施設としては古いこともあり、中途半端な感じがする。道の駅のイメージで立て直すのが良い</p> <p>...土曜日なのに活気が無い。野外音楽施設や文化ホール等があれば良いと思う</p>	<p>津久井町緑の休暇村センター</p> <p>...相模原市民の多くの方が利用できるようにしていきたい</p> <p>...ここも自然も施設も中途半端な感じ。もう少し広い自然を活用できないか</p> <p>...温泉、カラオケの出来る日帰り保養センター（老人もOK）の拡充整備</p> <p>...温泉設備を早く立ち上げてPRを広く行い集客に努めるべき。R413からの入口に看板が欲しい</p> <p>...温泉掘削中、新市の奥座敷、県民、都民の憩いのスペースとして大切に整備したい、修景対策も。相模湖と宮ヶ瀬は一応まとまっている観光拠点と思う。湖畔に民間商業スペースがあり活気が生まれている</p> <p>一案（新小倉橋エリアに大型の道の駅建設、駐車場完備でテナントを募集し食堂、地場産物の直販、入浴、サウナ、仮眠部屋、観光のペーシヤップ、コミュニティセンターとして活用、馬券、ポート券売場併設、健全な娯楽場、地元活性）</p> <p>森林浴を主体とした公式マレットゴルフコースの新設</p>	<p>相模湖は日本最初の人造湖だが、観光地としては、中央高速の開通以来通過点になってしまった</p> <p>全国的に名が通り、神奈川県有数の観光地としての施設と遊具類があるが相互の連携がない。ピクニックランドも石老山等の山にもそれぞれ単眼で整備されている感じがある。3町唯一のJR駅、高速インターも生かされていない</p> <p>R20の小原本陣付近のまちなみ（街道）はもっと保存して観光資源にしたらいいと思う</p>
	<p>【課題】</p> <p>自然が豊かだが山林の材価の低迷により山が荒れている。将来問題</p> <p>山林の荒廃（水源資質の保全）</p>	<p>自然を活かした産業があるとよい</p>	

地域特性、資源 3 【(2)土地利用】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(5/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 若い「まち」という感じで、明るいイメージを持つ住居、産業、商業地域面積が広く人口が増加している橋本、町田、相模大野、古淵など大きな街がある。地域的に、相模原/大野/橋本/上溝がバラバラだが、今となってみれば、中核地がたくさんあるのは魅力的北相地域の中心的存在、3町との合併によりバランスの良い自立性の高い政令指定都市となる土地が平坦。都市部と農村部が混在している人口が多く活気がある。買い物しやすい駅周辺は色々な施設が多く便利。ターミナル駅周辺は非常に活気がある都市計画の優秀さ「あじさい通り」がよかった。相模原市内だが、津久井広域道路に 通り風の特徴を持たせるとよい。心理的一体化</p> <p>【課題】 南北が分断されているイメージがある。北部に対するなじみがうすい、混雑している。広すぎるし、人口も多すぎるので同じ市という一体感がない。南北に長い市民が一体になるシンボル(いわゆるまちのへそ)がない。大都市だが、ただ人口が多いだけで、都市として特長がない。独自性が見られない交通と買い物を考えると便の良い所と悪い所がはっきりしている。(例えば相模大野と新磯野)相模大野駅、小田急相模原駅周辺は商店街多く、道狭くごちゃごちゃの感じ。超高層ビルによる都市の早期開発が必要(地下駐車場も必要)周辺市町村と比較すると土地が高い街の中心に広大な基地がある(都市、交通路を遮断)橋本駅前の相原高校、相模原駅前の米軍等もったいない気がする駅周辺の密集市街地で再開発が必要と思われる危険地帯がある。商業集積拠点の整備も大切であるが、夜の飲食街も必要悪である小田急相模原駅周辺は都市開発計画で更に都会化されるようだが、津久井3町からは交通の便が悪い。買物、グリーンホール等の駐車場の完備が必要、電車利用で橋本-町田乗り替え等は不便麻溝台・新磯野土地区画整理事業...雑然としているが、区画整理により整理されれば隣接の公園ともマッチしてすばらしい地域になると思う</p>	<p>【良いところ】 細長い、通過交通が多いなどの地理的ハンデを感じさせない、まちとしてのまとまりがある自然が豊かで住環境がよい。バランスの良い住宅都市町田、相模原のベットタウンとして発展相模原市と陸続き、平地。相模原市に隣接して生活圏を共有していることいろいろな面で「古い」ところと「新しい」ところが混在しており、何となく落ち着く町である若葉台、原宿、町屋等の住宅地と小倉地区等の自然地域等の役割がよくわかる城山若葉台団地は、緑に包まれた街並みがきれい。今後、道路計画等が進むと戸建住宅の立地等が増えると思われるが、水源地域津久井にふさわしい暮らし方・住まい方を具現化する方策を考える必要がある</p> <p>【課題】 町としての特色が感じられない。まちに活気がない相模原市の一部という感じがする。相模原市のフリンジ的位置で印象が薄い。津久井と相模原の間であまり地域性を感じない見えない相模原との境界線で、土地の値段が安くなってしまったり、売れなかつたりする道が混んでいて、津久井や相模湖方向に行く通過点という感じがある町役場付近しか栄えていない町面積の狭さ拠点性にかける町。ベットタウンのイメージが強い。まちにランドマークがない</p>	<p>【良いところ】 歴史を感じるまち。津久井町の歴史は古く優れた文化があり、また各地区においては親密な連帯感がある土地が比較的低廉で住宅を建設しやすい人口密度の低さ津久井郡の中心地町の面積が広い</p> <p>【課題】 集落が離れていて寂しそう。居住地が点在している。広すぎてまとまりがない町面積の半分以上が森林等である津久井郡の中核としての活力や吸引力に欠ける土地利用に制限がかかりすぎている無計画な開発が多く良好な社会資本ストックに結びつかない金原工業団地・国道413号青野原バイパス周辺で、耕作放棄された農地・未利用地が目立つ。営農意欲もないのだし、国道沿い、また津久井広域道路計画等のこともふまえて土地利用のあり方を考えるべき津久井湖以外何があるか知らない何となく「古い」イメージがある。町の随所にちょっとさびれた感じがする何となく生活しにくそう中野は、ロケーションからいって、もう少しキチッととした街づくりがあってもよいように思う山梨県と間違えられる</p>	<p>【良いところ】 高速ICの名称は、知名度を上げるには大変有効である。関西でも相模湖を知っている人もいる津久井郡4町の中でも一番ネームバリューがある住みやすそう小原宿の面影を残す景観がいい</p> <p>【課題】 湖からJRの駅に至る一体に、住宅が雑然と密集している感じ駅、高速道路のICがあるのに、駅前商店街等の元気が無く、住宅地もあまりない。駅前商店街の活気がないうえ景観も乱雑相模原の地価が下がり、相模湖町から引っ越ししてしまう現状湖がある位で特徴がない。相模湖以外何があるか知らない利用可能な土地が少ないこともあり、これからの発展が難しそう湖に一等地を取られ傾斜地にひしめき合って住んでいる感じがする</p>
<p>【良いところ】 地域に根ざした街が見られる</p> <p>【課題】 過疎防止として、農用地(農地法、農振法)の網で規制されている土地の利用を考えること</p>			

良いところ 課題

地域特性、資源 4 【(1)教育・文化】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(6/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 小学校～大学まで学校数が多く通学が便利。小中学校の規模が適正で、学区が広がりすぎない学校評議員制度の導入 大学が多数あり今後の市のあり方として「文教」を重点にする事がベストではないか グリーンホール、博物館などに代表される文化施設が多く恵まれている 図書館のハード、ソフト(開架式、相談員等の対応)共にすばらしい 相模原市立博物館 ...施設の素晴らしさ(さがみはらの歴史に触れられる、コンセプトの明確さ) ...内部の展示も分かりやすく、親しみが持てる。再度来たくなる。津久井その他、外部へのPRを盛んにしたい。一帯を文化ゾーンとして更に整備したい 伝統的な祭行事がある(大風祭、七夕祭、上溝・田名の祭、花火大会等)</p> <p>【課題】 総合学習にしても学校評議員制度にしても、認知度が足りない。もっとオープンにして民間から人を募る等、民の意見を取り入れる更なる姿勢が必要 中学校がお弁当 図書館への力点がやや弱い 施設はあるが利用頻度が少ない 相模原市立博物館 ...現相模原市だけの説明にとどまっているものが多く合併したらどうするのか心配 ...赤字収支で大変と思うがこの様な教養施設は必要。特別事業や市民学生以外の見学者は安い入館料をとって、赤字減らしをしてもいいのではないか ...財政が予算の見直しで大変という説明が多かったが、職員数は多いように感じた ...特別展示室を使わない時には多くの収蔵品があるということなのでテーマを決めて展示したらどうか ...用途別に説明を子供にもわかりやすくする必要を考えてみたら</p>	<p>【良いところ】 中学校給食がある。子育て支援活動や小学校中学校を通しての完全学校給食制度も子を持つ親たちにはありがたい。設備の整った給食センターがある 学校行事への地域、家庭の参加が活発に行われている 小さいながら身近な公民館図書室がある(但し、蔵書数には不満あり) 八幡神社のお祭りや各自治単位での盆踊り、育成会イベントがとても良いイメージがある 町民文化祭・もみじ祭なども身近な感じで実施 町主催の歴史講座などの内容は、身近な話題で親しみやすい 町の鎮守としての川尻八幡の存在</p> <p>【課題】 学校施設や校舎等が古く備品も粗末 小学校でも高学年に音楽美術等専門の教職員が増やせるとよい 学校設備、施設に加えて青少年が集える場所がない。周辺には大学も増えているので、学び、集い、ふれあえる大きな図書館のような施設があったらよい。城山町の世帯も高齢化し若者が少なくなりつつあるので、城山町に是非あると良い 文化施設が少ない。大きなホールがない 教養講座などの募集に際して、なかなか受講者が集まらない 公民館について趣味をする為の施設があまり無い(陶芸釜、電動ロクロなど)</p>	<p>【良いところ】 地域毎に小中学校が配置されている 高校、大学へ自宅からの通学可能 子供たちが伸び伸びとしていてすねていない。(昔のガキ大将のイメージ) 教育委員会の町民大学講座開講の利用、海外姉妹都市との交流 地域伝統文化が根付いている。歴史・伝統があり、活かされている 公共、文化施設が整っている</p> <p>【課題】 教育文化施設が少ない 小学校、中学校の選択の幅が狭い(新市立の中学、高校一貫全寮制での人材養成を希望) 新市立の幼稚園(保育園)、小学校で英語教育(アメリカンスクール方式)外国語の早期教育希望、国際人の養成 文化、教育面のおくれ 良質な音楽や演劇、芸術など町内で接する機会はない</p>	<p>【良いところ】 子供たちが伸び伸びとしていてすねていない。(昔のガキ大将のイメージ) 交流センターで身近に音楽や映画等芸術に触れることができる。交流センターの催し物が良い 伝統行事、イベントが適時、各地にあり楽しめる 町内に彫刻が多くある</p> <p>【課題】 高校への通学が不便 お祭りなどの伝統的行事の規模が小さくなっている</p>

良いところ 課題

地域特性、資源 4 【(2)健康・福祉】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(7/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 病院(大学病院、救急病院)が充実している。 市民健診が制度化している 市民病院が無く、結果特別会計を使わないで済む 福祉施設が充実している。子育てについて福祉的なサポートがある 在宅福祉の拠点が公民館区毎にある 保健所が市内にある</p> <p>【課題】 大きな病院等が地域に貢献していない 耳鼻科・眼科等の専門医療施設が少ない 休日診療を行っているところが少ない 子供に対する医療が充実してない 障害を持つ児童への支援が足りないように思う 高齢者に対する福祉が見えない。高齢者のための福祉施設がまだ不足している 公立医療老人ホームが少ない 保育所、老人施設等が少ない。(児童保育所の数及び規模が小さい)。学童保育の時間が短い 市民生きがい農園、あじさい大学等が、高齢者ニーズを満たせない(抽選) ウェルネスさがみはら ...立派な施設を市民が十分活用できる PR が必要 ...FMさがみの活用。将来的にはさがみTV、案内等の構想で諸設備のPR等期待したい</p>	<p>【良いところ】 町民センターや保健福祉センターでの催し物も充実している。一般使用もできるので、様々な団体や町民との交流の場となっている 社会福祉協議会やボランティアによる様々なボランティア活動が活発に行われ、小中学校生徒の体験学習も多い。ライフホーム城山見学など、子供達がお年よりと接する事も多く大切な施設の一つです</p> <p>【課題】 少子高齢化 医療機関が少ない。人口に対する医療施設率が低い 大きな総合病院や専門医等、医療施設が少ない</p>	<p>【良いところ】 赤十字病院がある 福祉政策良好</p> <p>【課題】 人口が減少、過疎化が進んでいる 子供に対する医療費補助が少ない 高齢化社会に向けて、有料老人ホームを低廉で、希望者を収納可能な設備の完備 鳥屋、青根、青野原周辺にヘリポートを設け、相模原の大病院への搬送が出来ないか</p>	<p>【良いところ】</p> <p>【課題】 少子高齢化 老人ホームがない 医療設備が整っていない、特に夜間</p>

良いところ 課題

地域特性、資源 4 【(3)安全・安心】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(8/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 産業公害が少ない</p> <p>【課題】 交通・工業・産廃施設により空気が汚れている 市内に警察署が2署あるにもかかわらず、犯罪発生が多い</p>	<p>【良いところ】</p> <p>【課題】</p>	<p>【良いところ】 救急病院、消防、救急、活用、治安は良い 町の安全性の高さ。治安がよい</p> <p>【課題】 水害に気を抜けない 一部を除き歩行スペースが極端に狭い。狭隘道路も多く危険を感じる人が多い</p>	<p>【良いところ】 台風等の災害が少ない</p> <p>【課題】 大雪、大雨ですぐ陸の孤島になってしまう 街灯が少ない、暗い 騒音道路公害(暴走車、排気ガス、ポイ捨て、渋滞、騒音、振動)</p>
<p>【課題】 消防を各々1町ごとには出来ず、4町共同で行っているという事はやはり地域性・結束力を感じた。消防に関しての課題は合併後も大きな問題かもしれません ヘリポートの設備、山岳遭難時、救急移送病者用等 最終処分場がいっぱいなのは知らなかった。道志川に廃水(処理水)を流しているのも知らなかった。ちょっと怖い。 重金属の封入された灰ペレット(よく知らないからだと思うが)も怖い</p>			
<p>【課題】 消防、救急救助の体制が不安だと思うので、合併を契機に対策を考えないといけない 消防ネットワークの要なども含めて新市全体の構造をもう少し丁寧にみていくとよい</p>			

良いところ 課題

地域特性、資源 5 【(1)参加・協働】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(9/10)

相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】</p> <p>市民参加に重点を置いている 特別近所との付き合いをしなくても生活が成り立つ 自治会の数の充実 市内に多様な人材が居住している。これらの人の力が取り入れられたら素晴らしい</p> <p>【課題】</p> <p>東京への通勤客が多く地元意識が薄い。単なるベッドタウンで市民の指向は東京都に向いていて地元に向いていない 京浜地区のベッドタウン的な人口の急激な増加によるまちなので、人の温かみを感じない 市民の地域に対する執着心が少ない。結果的にまちづくりへの市民参画が果たされていない 地域の関係が希薄化している 自治会の地主さん達中心になっているところがある 自治会の活動は、昔からの慣例的な活動が多く、末端の民意が活かされた活動が出来ていない部分が見受けられる。時代と住民のニーズに必ずしも合致していない</p>	<p>【良いところ】</p> <p>規模が小さいこともあり住民同志の交流が盛んである。町が小さいので、何となく皆「同じ住民」の意識 自治会が活発である。これは子供の発育に大変大きい 住民一人ひとりに目が行き届きサービスは勿論の事、ふれあいの暖かさを感じる</p> <p>【課題】</p> <p>昔からの住民と新住民の融合は必ずしもうまくいってない 新住民は、愛「町」意識などはあまりない</p>	<p>【良いところ】</p> <p>地域住民同士の付き合いが密接に感じる 地域のコミュニティ活動が盛ん 郷土意識が強い</p> <p>【課題】</p> <p>環境保全育成についての住民意識が低い よい町を作ろうなどということを考える住民は少ない</p>	<p>【良いところ】</p> <p>居住者はみな人情に厚い 地域住民同士の付き合いが密接に感じる 一般住民、近隣社会の雰囲気良く排他的ではなく、とけ込みやすい(転入時の印象) 自治会の組織、活動が程よく行われている 住民同士の交流が温かみのある町である</p> <p>【課題】</p> <p>町、町民全体としての連帯感や郷土意識の希薄さ(昭和、明治の大合併以前の地域意識が濃厚) せっかくの地域まちづくり資源が埋もれ、私物にとどまっている</p>
<p>【良いところ】</p> <p>人情味が豊か。あたたかい人柄 行政と住民が近在している</p>			

良いところ 課題

地域特性、資源 5 【(2)行財政】

1市3町の地域特性や資源に関する意見(10/10)



相模原市	城山町	津久井町	相模湖町
<p>【良いところ】 財政力指数が高い。公共施設が充実している 市役所に専門家スタッフがいる 都市財政の力量にすぐれている。(行政の先進性)</p> <p>【課題】 市役所が遠い 施設使用に関し、市民のニーズに応えられるような使用環境を充実させるべき</p>	<p>【良いところ】 規模が小さいこともあり行政サービスがきめ細かい 自治会等への助成金がある 役場・公民館・保健福祉センターなどに住民は親近感をもっている 小さい町だからか、すぐ声が届く(危ない道路には信号機を付けてもらえたり、危ない歩道の段差を取ってもらえたり、犬のフン規制をしてもらえたり出前役場で目の前で質問に答えてもらったり) 財政力が豊か(運営に無理がない) 人口、面積等バランスがいい</p> <p>【課題】 相模原市と生活圏は一体になっているかと思うけれども行政の連携がとれていない 財政基盤が弱い 何となく旧態然としたやり方のように思える 改革・変革への意識はやや乏しい印象 町としての施策に若々しさが感じられない 地元業者優先はよいが、多少馴れ合い的な雰囲気を感じる</p>	<p>【良いところ】</p> <p>【課題】 金がない、金がないばかりで工夫する姿勢があまり見られないのが残念 財政基盤が弱い。財政力が弱含み(面積需要が大きいためか)</p>	<p>【良いところ】 町役場職場(窓口等)の接客態度がアットホーム、対応も適切、率直で好ましい 各種住民負担が平均並で重圧感がない</p> <p>【課題】 財政基盤が弱い 役場が遠方にある 計画事業の実施が財政的なことなのか遅れている</p>

良いところ 課題


2. 分野別課題

各委員から出された「1. 1市3町の地域特性や資源に関する意見」を集約し、分野別の課題として整理しました。

2-1. 交通、都市基盤

(1) 交通	
 <p>バス（城山町）</p>	<p>津久井広域道路とさがみ縦貫道路の早期実現 幹線道路などでの交通渋滞の解消 バスのネットワークの充実 津久井地区方面への鉄道の延伸整備 自転車交通や歩行者対策などの道路附帯施設の改善 路上駐車 の 解消</p>
(2) 都市基盤	
 <p>北清掃工場（相模原市）</p>	<p>水源地における下水道の整備 都市的地域の緑地整備 子どもが遊べる公園の確保 津久井地域のスポーツ・レクリエーション施設の整備 公共サイン・案内板の整備 国道412号、国道413号沿道などの修景促進 津久井地域における情報基盤の整備 公営住宅（戸数不足、面積不足など）の改善 都市ガスの整備</p>



2-2. 自然・環境

(1) 自然・環境	
 <p>津久井湖（津久井町）</p>	<p>自然の保全（環境に対する意識や評価の向上） 自然を活かした地域づくり 水源地の水質保全と地域整備の両立 ごみの不法投棄や蜚の棲める川に再生するなど、河川環境の改善 湖の水質改善と観光資源としての活用</p>

2 - 3 . 産業・観光、土地利用

(1) 産業・観光	
 <p>工場集積地 (城山町)</p>	<p>企業立地基盤の整備と誘致 農業の保全と担い手育成 林業(山林)の保全と担い手育成 特色ある商店街づくりなど商業の活性化 産業の振興と雇用の増大 自然のレクリエーション拠点の創出 観光拠点の連携推進 既往観光施設の有効活用 湖の観光資源としての活用 小原本陣など、街並みの観光資源への活用</p>
(2) 土地利用	
 <p>相模大野駅周辺 (相模原市内)</p>	<p>地域の拠点の形成 バランスのとれた土地利用 特色ある地域づくり 計画的な土地利用による社会資本の蓄積 土地利用の規制緩和 駅前密集市街地の改善 広大な米軍基地による市内の地域および交通の分断</p>

2 - 4 . 教育・文化、健康・福祉、安全・安心

(1) 教育・文化	
 <p>学校給食センター (城山町)</p>	<p>学校教育の充実 学校施設の充実 学校給食の実施 伝統行事の保護 文化施設の整備</p>
(2) 健康・福祉	
 <p>ウェルネスさがみはら (相模原市)</p>	<p>医療サービスの充実 児童福祉や高齢者福祉サービスの充実など、少子高齢化への対策 障害者福祉サービスの充実</p>

(3)安全・安心



津久井郡消防本部

防災、治水対策の推進
消防体制の整備と確立
救急体制の整備と確立
公害対策の推進
防犯対策の推進

2 - 5 . 参加・協働、行財政

(1)参加・協働



木もれびの森美化運動
(相模原市)

地域コミュニティの形成
自治会運営の活性化
住民と行政の良好な関係の維持と更なる充実

(2)行財政



着実な施策の実施
財政基盤の健全化
役所・役場の適正配置

参考資料

参考1 合併の背景…………… 参考-1

参考2 1市3町の概況

- 1 . 位置と地勢……………
- 2 . 沿革……………
- 3 . 面積……………
- 4 . 人口・世帯……………
- 5 . 土地利用……………
- 6 . 道路・交通……………
- 7 . 産業……………

参考1 合併の背景

わたしたちを取り巻く社会環境や日々の暮らしが急速に変わってきています。産業の高度化や、社会基盤の整備に伴う生活圏域の拡大、少子高齢化の進行などにより、行政サービスの質的変容が求められています。

このような時代の潮流を受け、より質の高い行政サービスを提供していくためには、基礎的な自治体である市や町にある程度の規模が求められています。

1市3町の合併を検討する背景には、次のようなことが考えられます。

(1) 地域のことは地域で決める時代です

地方分権の時代を迎え、国や県が市や町の仕事の細部にわたって指示する時代は終わりつつあります。質の高い行政サービスを提供するため、市や町はそれぞれの地域の課題に対して、自らの考えと力で解決しなければならなくなっています。

(2) 少子高齢化が進んでいます

急激な早さで少子高齢化が進んでいます。推計では、神奈川県は2009年をピークに人口が減少に転じるものとされています。このため、税金などを負担する住民が減る一方で、保健・医療・福祉などのサービスを必要とする人が増えるので、市や町にとっては、将来の財政運営が深刻な課題となっています。

(3) わたしたちの暮らしの範囲は市や町の区域を越えて広がっています

自動車の普及や道路網、鉄道路線の整備による交通手段の改善、インターネットや携帯電話の普及による情報通信手段の発達、経済活動の活発化などに伴い、通勤・通学や買い物、医療など住民の日常生活の行動範囲は現在の市町村や都道府県の区域を越えてますます広がっています。自分の市や町であれば、住民の立場でサービスや政策に関する意見を述べたり、計画策定に参加したりすることができます。

(4) 一つの市や町だけでは対応できない課題が増えています

ライフスタイルの多様化や社会の複雑化に伴い、廃棄物対策、医療・福祉やダイオキシン問題など、小さな規模の市や町では解決が困難な課題がますます増えてきています。

(5) 国も地方も財政状況が厳しくなっています

国、地方とも財政状況は悪化しています。平成 16 年度末の国、地方の長期債務残高の合計は 719 兆円に達すると言われていています。こうしたことから、財政負担の増大を抑えつつ、行政コストを削減していくことが急務になっています。

(6) 参加と協働による新しい住民自治が重要です

新しい住民自治には、住民一人ひとりが自ら地域の課題を解決したり、ルールを作ることができるシステムが求められています。実効性のある参加と協働が展開されるためには、ある程度の地域の規模が必要です。

参考2 1市3町の概況

1. 位置と地勢

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町の1市3町からなる本地域は、神奈川県北部に位置し、北部は東京都、西部は山梨県と接している。

相模原市は、西に丹沢の山々を臨み、相模川の左岸に南北に細長く広がる相模原台地の北半分に位置している。

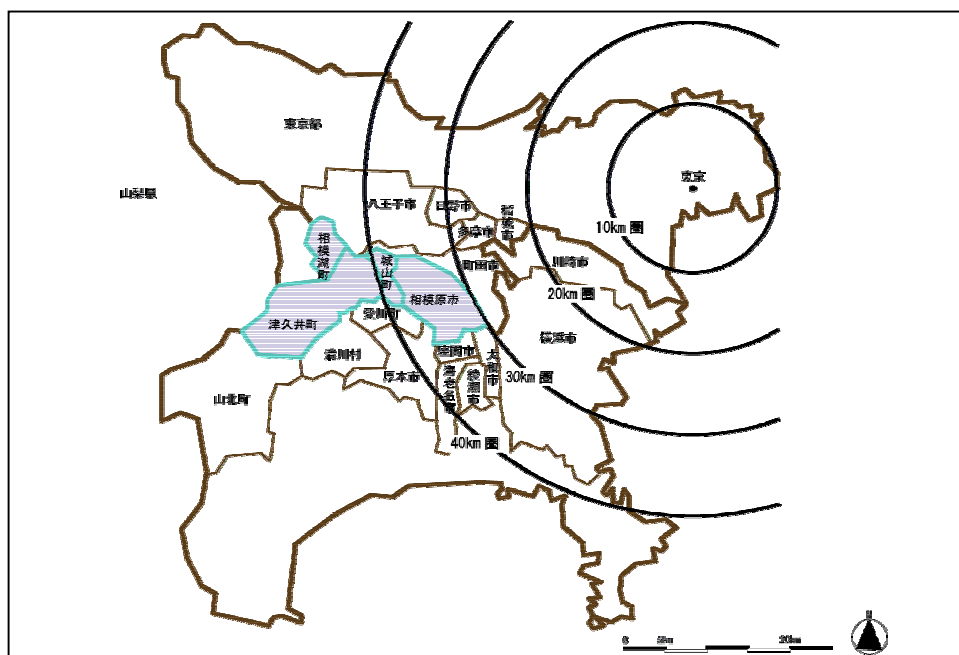
相模原台地は、相模川に沿った3つの河岸段丘からなるのが特徴で、高い方から相模原段丘（上段）、田名原段丘（中段）、陽原段丘（下段）と呼ばれ、なだらかな階段状になっている。これらの台地の間には、斜面緑地があり、相模川とともに、相模原市の水と緑の骨格を形成している。

城山町は、相模川沿いに続く平坦な相模原台地から山間部に入る地帯に位置している。東部は相模原市から続く平坦部として宅地化が進んでいる。中央部から南西部にかけて相模川が流れ、城山ダムにせき止められた津久井湖があり、南部は丹沢山系、北部は高尾山系に連なる山々や丘陵があり、また、北部には、水力発電を行うために造られた城山湖があります。

津久井町は、北東部は市街地が形成され、その周辺には優良な農地が展開し、これを取り巻いて津久井湖と緩やかな丘陵地が広がっている。北部には、町境に沿って道志川が、また南部には、串川がそれぞれ東西に流れ、その流域に緑豊かな街並みが形成されている。

相模湖町は、町のほぼ中央を相模川が東流し、そこに県民の水がめ相模湖があり、町を南北に二分する形になっている。

■ 1市3町の位置



2. 沿革

1市3町の現在に至るまでの沿革は、明治22年の市制町村制施行に伴う「明治の大合併」に始まり、昭和28年の町村合併促進法施行、昭和31年の新市町村建設促進法施行に伴う「昭和の大合併」を経て、以下のとおりとなっている。

■相模原市

年 月	沿 革
明治22年4月	座間村、新磯村、麻溝村、田名村、溝村、大沢村、相原村、大野村が誕生
大正15年1月	溝村が町制を施行し、上溝町が誕生
昭和12年12月	座間村が町制を施行し、座間町が誕生
昭和16年4月	2町6村（座間町、上溝町、新磯村、麻溝村、田名村、大沢村、相原村、大野村）が合併し、相模原町が誕生
昭和23年9月	座間町が分立
昭和29年11月	市制を施行し、相模原市が誕生
平成15年4月	中核市の指定

(資料：相模原市史)

■城山町

年 月	沿 革
明治22年4月	川尻村、湘南村、三沢村が誕生
昭和30年4月	3村（川尻村、湘南村、三沢村の一部）が合併し、町制が施行され、城山町が誕生

(資料：城山町史)

■津久井町

年 月	沿 革
明治22年4月	三沢村、中野村、太井村、又野村、三ヶ木村、青山村、根小屋村、長竹村、鳥屋村、青野原村、青根村が誕生
明治42年5月	青山村、根小屋村、串川村の3村が合併し、串川村が誕生
大正14年7月	中野村、太井村、又野村、三ヶ木村の4村が合併し、中野町が誕生
昭和30年4月	1町5村（中野町、串川村、鳥屋村、青野原村、青根村、三沢村の一部）が合併し、津久井町が誕生

(資料：津久井町史)

■相模湖町

年 月	沿 革
明治22年4月	小原町、内郷村、千木良村、与瀬駅が誕生
大正2年4月	与瀬駅が町制を施行し、与瀬町が誕生
昭和30年1月	2町2村（小原町、与瀬町、内郷村、千木良村）が合併し、相模湖町が誕生

(資料：相模湖町史)

3. 面積

1市3町の全体の面積は、263.94 km²であり、神奈川県（2,415.69 km²）の約10.9%を占めている。

■ 1市3町の間積

区分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	1市3町合計	神奈川県
面積 (km ²)	90.41	19.90	122.04	31.59	263.94	2,415.69
面積比 (%)	34.3	7.5	46.2	12.0	100.0	—

資料：県勢要覧〔平成15年度版〕神奈川県企画部統計課

4. 人口・世帯

(1) 人口動向

昭和55年から平成12年までの間は1市3町とも人口は伸びており、概ね1.3～1.5倍に増えている。この間、相模原市は昭和55年から平成12年で439,300人から605,561人と約15万人増えている。

人口の伸び率でみると、平成7年から平成12年において、相模原市は6%台の伸びとなっている。この時期に人口が減少したのは、津久井町と相模湖町である。

■ 1市3町の人口動向

都市名	国勢調査人口					H12/S55
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	
相模原市	439,300	482,778	531,542	570,597	605,561	1.4
伸び率		9.9%	10.1%	7.3%	6.1%	
城山町	15,732	19,248	21,535	22,732	23,036	1.5
伸び率		22.3%	11.9%	5.6%	1.3%	
津久井町	20,746	24,460	28,038	30,448	30,345	1.5
伸び率		17.9%	14.6%	8.6%	-0.3%	
相模湖町	9,007	9,845	10,592	11,263	10,896	1.2
伸び率		9.3%	7.6%	6.3%	-3.3%	

資料：国勢調査

(2) 世帯数の推移

平成7年と平成12年の世帯数を比較すると、相模原市の伸び率は最も高い結果となっている。なお、人口の減少が最も大きかった相模湖町では、世帯数も減少している。

■ 1市3町の世帯数の推移

都市名	国勢調査世帯（世帯）		H12/H7 伸び率(%)
	平成7年	平成12年	
相模原市	212,209	237,936	12.1%
城山町	7,208	7,663	6.3%
津久井町	9,046	9,492	4.9%
相模湖町	3,793	3,712	-2.1%

資料：国勢調査

(3) 年齢別人口構成

65歳以上人口の割合は相模原市では11.1%であるが、相模湖町では16%を超えている。

■ 1市3町の年齢別人口構成

都市名	平成12年 国勢調査 年齢別人口(人)				平成12年 国勢調査 年齢別人口割合			
	0~14歳	15~24歳	25~64歳	65歳以上	0~14歳	15~24歳	25~64歳	65歳以上
相模原市	89,531	86,783	362,052	67,174	14.8%	14.3%	59.8%	11.1%
城山町	3,193	3,653	13,507	2,683	13.9%	15.9%	58.6%	11.6%
津久井町	4,669	4,269	17,243	4,150	15.4%	14.1%	56.8%	13.7%
相模湖町	1,513	1,722	5,909	1,750	13.9%	15.8%	54.2%	16.1%

資料：国勢調査

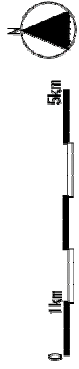
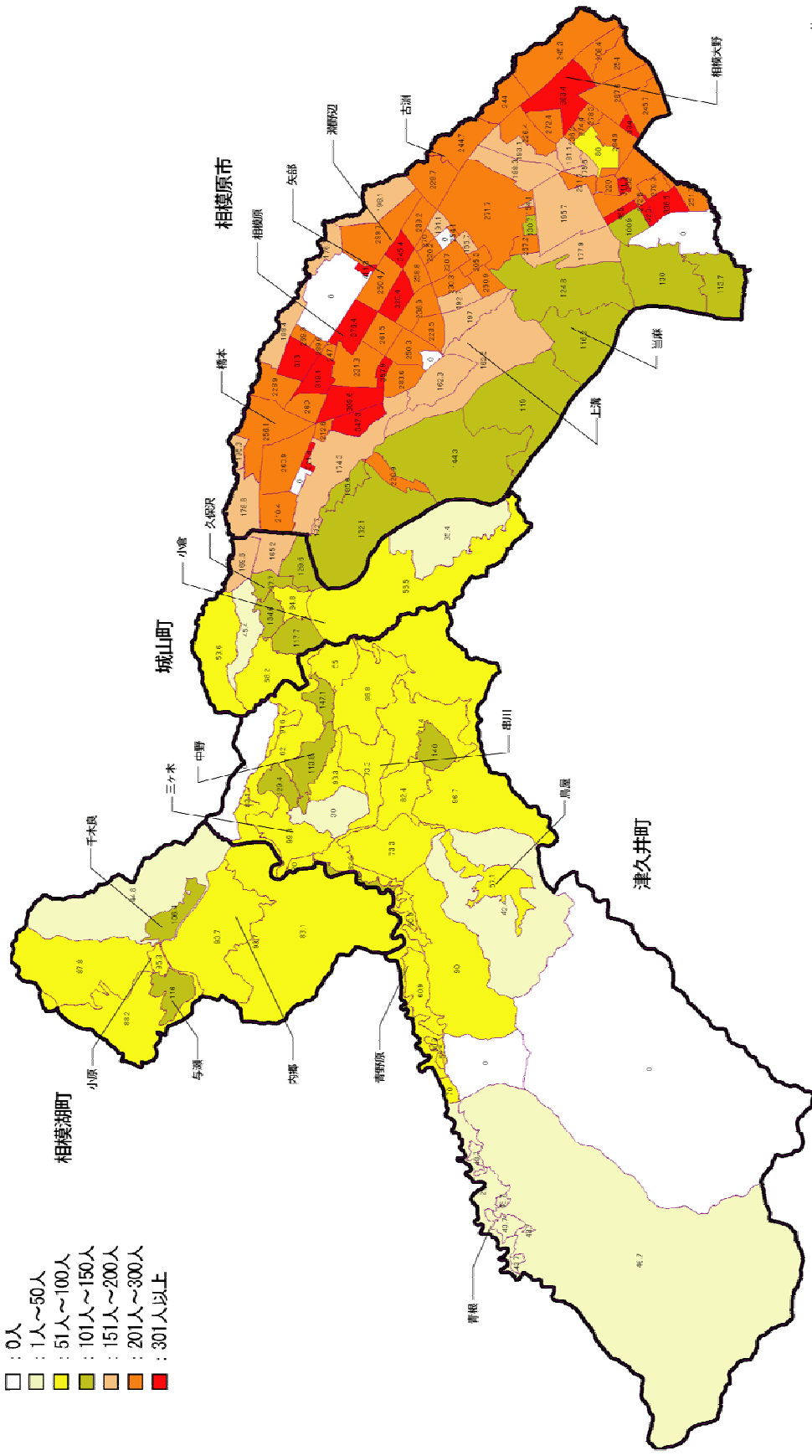
(4) 人口密度

次頁の図は、都市計画基礎調査(H12)における地区(中ゾーン)別の人口密度である。図を見るように、相模原市の東部から津久井町の西部にかけて、人口密度が段階的に小さくなっている。

人口密度

【凡例】(単位:人/ha)

- : 0人
- : 1人~50人
- : 51人~100人
- : 101人~150人
- : 151人~200人
- : 201人~300人
- : 301人以上



5. 土地利用

(1) 土地利用の法指定状況

① 都市地域

本地域には、相模原都市計画区域（相模原市全域及び城山町全域）と津久井都市計画区域（津久井町の一部）、相模湖都市計画区域（相模湖町全域及び藤野町の一部）の3区域がある。

線引きは、無秩序な市街化を防止し計画的な市街化を図るため、都市計画区域を区分するものであり、計画的な市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」に区分される。非線引きは、この区分をしないことをいう。

相模原都市計画区域は線引きを行っているが、津久井都市計画区域と相模湖都市計画区域では、非線引きとなっており、土地利用に関する規制や誘導方策が弱い。

一方、建物の用途や規模を定める「用途地域」の指定状況は、次頁中段表のようになる。1市3町にてそれぞれ異なった傾向が伺える。用途地域を住居系・商業系・工業系の3つの区分に分けた次頁下段表を見ると、いずれの市町でも住居系の指定が最も多い面積を占める。その一方で、相模原市では他の3町と比べて工業系の比率が高い傾向がうかがえる。

②農業地域

市町ごとの農業振興地域の面積を見ると津久井町が 2,000ha と最も大きい面積を占める。市域面積に占める割合を見ると、全体の平均は 15.4%であり、県平均の 21.1%より小さい。1市3町では、城山町が 30.9%と最も多く、相模原市が 8.1%と最も小さい割合となっている。

土地利用の制限が厳しい農用地区域の面積を見ると、相模原市が 321ha と最も大きい面積を有する。市域面積に占める割合で見ると、全体の平均で 2.7%であり、県平均の 4.8%より小さい。城山町が 4.9%で最も多く、津久井町が 1.8%と最も少ない結果となった。

③森林地域

森林に関わる主な法指定地域としては、森林法（及び森林法が規定する地域森林計画）に基づく、国有林、地域森林計画対象民有林、保安林がある。国有林及び地域森林計画対象民有林は指定が重複しないが、保安林はそれらに重複して指定されることがある。

国有林と地域森林計画対象民有林を足し合わせた面積を見ると、1市3町全体では、13,672ha で、面積の 51.8%を占めている。これは、県平均の 37.7%と比べて大きい割合となっている。1市3町単位で見ると、津久井町が 10,036ha（82.1%）と最も多く、相模原市が 344（3.8%）と最も少なかった。

一方で、より土地利用の規制が強くなる保安林の指定を受けている地域の面積は、1市3町全体で見ると 11,162ha（42.3%）であり、県平均の 20.6%より割合が大きい。特に、津久井町が 9,562ha（78.4%）と跳びぬけて大きい面積を有している。

④自然公園地域

本地域における自然公園地域としては、津久井町の南部に広がる丹沢大山国定公園がある。国定公園においては、土地利用の規制の段階に応じて弱い順から第1種～3種地区、特別保護地区が設定され、運用されている。

県立自然公園は、津久井町の県立丹沢大山自然公園、相模湖町の県立陣馬相模湖自然公園の2公園がある。県立自然公園には土地利用の厳しい特別地域と比較的制限がゆるい普通地域があり、特別地域は県立丹沢大山自然公園のみに設定されている。

⑤自然保全地域

本地域における自然環境保全地域としては、城山町の3箇所（城山・城山湖・小倉山の計 226.2ha）と、津久井町の5箇所（茨菰山、志田山、仙洞寺山、城山、青野原の計 501.5ha）と、相模湖町の1箇所（寸沢嵐の 12.8ha）がある。本地域には、土地利用制限がより厳しい特別地区はない。

(2) 土地利用現況

大区分別の土地利用として1市3町で一番多いものを見ると、相模原市では宅地が約30%であり、他の3町では山林が一番多い割合となっている。津久井町・相模湖町では山林が町域の7割以上を占めているため、宅地などの都市的な土地利用が少ない。

その他特徴的なものを見ると、農地、工業・流通、公共施設、交通用地などにおいて、相模原市が他の3町に比べて比較的面積及び割合が大きい。

■ 1市3町の土地利用の現況（大区分）

	相模原市		城山町		津久井町		相模湖町		1市3町合計		神奈川県計	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
山林	353.4	3.9%	897.2	45.1%	10,040.8	82.3%	2,332.6	73.8%	13,625.3	51.1%	95,057.4	39.4%
河川・湖	116.8	1.3%	89.4	4.5%	420.4	3.4%	117.5	3.7%	744.2	2.8%	4,976.0	2.1%
公園等	369.2	4.1%	189.8	9.5%	301.9	2.5%	11.5	0.4%	872.7	3.3%	8,357.4	3.5%
農地	1,216.9	13.5%	195.9	9.8%	609.2	5.0%	189.5	6.0%	2,211.8	8.4%	27,678.4	11.5%
宅地	2,791.7	30.9%	190.8	9.6%	349.9	2.9%	115.6	3.7%	3,448.4	13.1%	41,806.3	17.3%
商業・業務	378.1	4.2%	18.7	0.9%	31.9	0.3%	151.6	4.8%	580.4	2.2%	5,805.8	2.4%
工業・流通	866.2	9.6%	34.8	1.7%	59.9	0.5%	33.2	1.1%	994.2	3.8%	12,898.7	5.3%
公共施設	567.6	6.3%	28.2	1.4%	60.5	0.5%	39.1	1.2%	695.5	2.7%	7,663.2	3.2%
交通	997.5	11.0%	84.4	4.2%	143.1	1.2%	71.9	2.3%	1,297.1	4.9%	18,659.1	7.7%
その他	1,383.6	15.3%	260.8	13.1%	186.4	1.5%	96.5	3.1%	1,927.6	7.3%	18,472.2	7.7%
合計	9,041.0	100.0%	1,990.0	100.0%	12,204.0	100.0%	3,159.0	100.0%	26,397.0	100.0%	241,374.5	100.0%

資料：都市計画基礎調査（H12）

■農業地域の面積：単位（ha）

	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	1市3町合計	神奈川県計
農業振興地域	731 (8.1%)	615 (30.9%)	2,000 (16.4%)	719 (22.8%)	4,065 (15.4%)	50,874 (21.1%)
農用地区域	321 (3.6%)	97 (4.9%)	217 (1.8%)	69 (2.2%)	704 (2.7%)	11,188 (4.8%)

（※カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成14年3月）

■森林地域の面積：単位（ha）

	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	1市3町合計	神奈川県計
（国有林＋地域森林計画対象民有林）	344 (3.8%)	935 (50.1%)	10,036 (82.1%)	2,357 (74.0%)	13,672 (51.8%)	91,055 (37.7%)
国有林	35 (0.4%)	132 (6.6%)	705 (5.6%)	88 (2.2%)	960 (3.6%)	10,936 (4.5%)
地域森林計画対象民有林	309 (3.4%)	803 (40.4%)	9,331 (76.5%)	2,269 (71.8%)	12,712 (48.2%)	80,119 (33.2%)
保安林	2 (0.0%)	220 (11.1%)	9,562 (78.4%)	1,378 (43.6%)	11,162 (42.3%)	49,684 (20.6%)

（※カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成14年3月）

■自然公園地域の面積：単位（ha）

	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	1市3町合計	神奈川県計
国立公園	0	0	0	0	0	10,375 (4.3%)
国定公園	0	0	6,725 (55.1%)	0	6,725 (25.5%)	25,572 (10.6%)
特別保護地区	0	0	375 (3.1%)	0	375 (1.4%)	1,867 (0.8%)
第1種～3種地区	0	0	6,350 (52.0%)	0	6,350 (24.1%)	25,705 (10.6%)
県立自然公園	0	0	411 (3.4%)	2,033 (64.4%)	2,444 (9.3%)	17,210 (7.1%)
特別地域	0	0	411 (3.4%)	1,426 (45.1%)	1,837 (7.0%)	12,772 (5.2%)
普通地域	0	0	0	607 (19.2%)	607 (2.3%)	4,538 (1.9%)

（※カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成14年3月）

■自然保全地域の面積：単位（ha）

	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	1市3町合計	神奈川県計
自然環境保全地域	0	226.2 (11.4%)	501.5 (4.1%)	12.8 (0.4%)	740.5 (2.8%)	11215.9 (4.6%)
特別地区	0	0	0	0	0	16.6 (0.0%)

（※カッコ内の数字はそれぞれの県市町の全面積あたりの割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成14年3月）

6. 道路・交通

(1) 広域道路交通体系

相模原市を中心とした道路交通網の骨格は、国道 16 号が中心となっており、これを介して広域交通を担う「中央高速道路」（八王子インターチェンジ）、「東名高速道路」（横浜町田インターチェンジ）に連携している。

また、城山町を縦断する「さがみ縦貫道路」が計画されている。

このほか、周辺地域の国道としては、八王子市を抜けて相模湖町に至る国道 20 号や厚木市方面からのアクセス道路となる国道 129 号、3 町を通る幹線道路としての国道 412 号、413 号といった 5 本の国道が走っている。

このうち、国道 413 号は相模原市から津久井地域への唯一の骨格道路であり、日常的な混雑が問題となっていることから、「津久井広域道路」構想の実現に向け、その一部は都市計画決定されている。

■ 1 市 3 町を通過する国道・県道

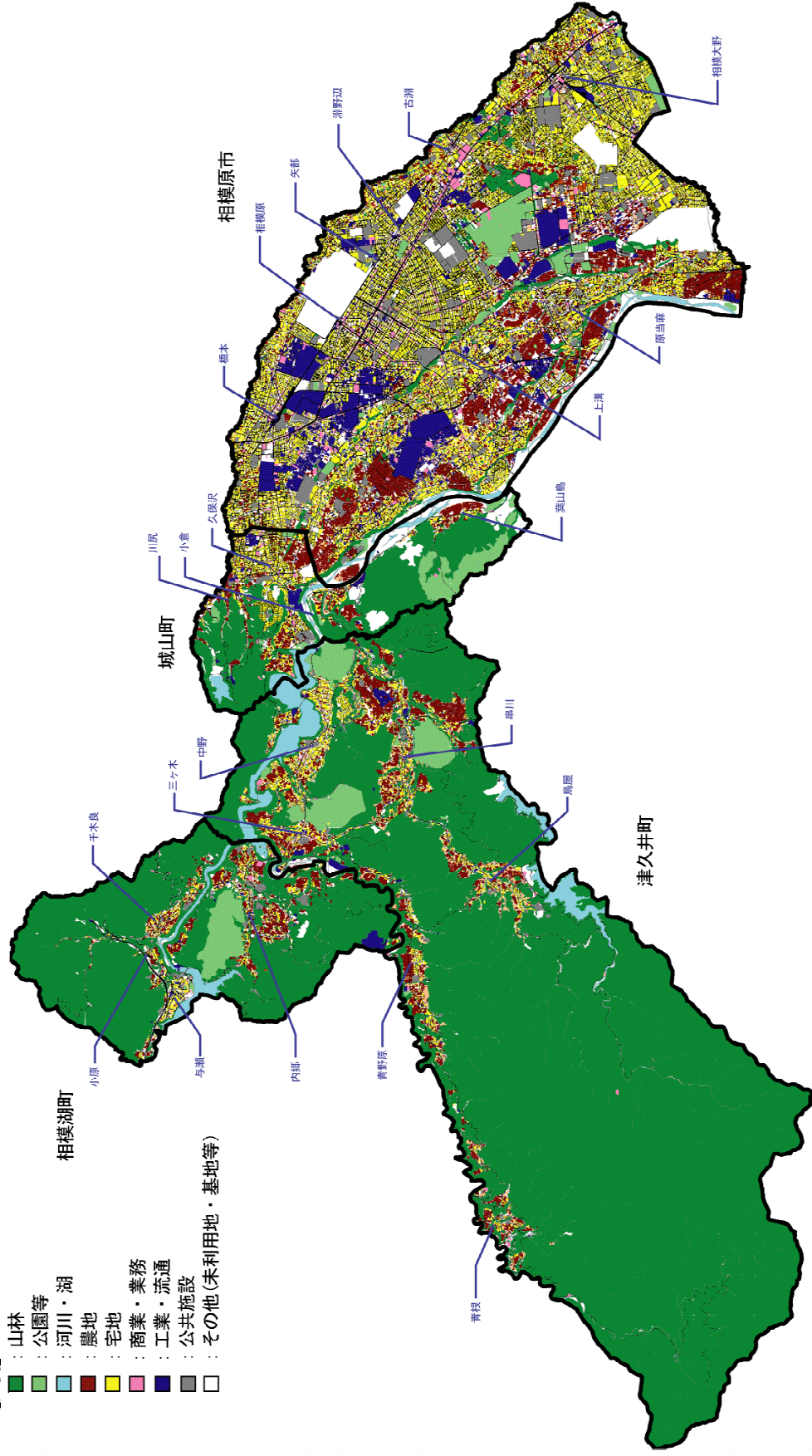
種別	路線名
国道 (高速自動車道)	中央自動車道
	東名高速道路
国道 (一般国道)	一般国道 16 号
	一般国道 20 号
	一般国道 129 号
	一般国道 412 号
	一般国道 413 号
県道 (主要地方道)	相模原茅ヶ崎線
	鍛冶谷相模原線
	町田厚木線
	相模原町田線
	相模原愛川線
	相模原大蔵町線
	相模原大磯線
	伊勢原津久井線
	厚木愛川津久井線
山北藤野線	

資料：市町村合併に関する調査研究部会中間報告（平成 15 年）

土地利用現況

【凡例】

- : 山林
- : 公園等
- : 河川・湖
- : 農地
- : 宅地
- : 商業・業務
- : 工業・流通
- : 公共施設
- : その他(未利用地・基地等)



(2) 鉄道・バス体系

1市3町及び周辺には、10鉄道路線と延べ74の駅がある。このうち相模原市には、小田急線、JR横浜線、JR相模線、京王相模原線の4鉄道が敷設されており、相模湖町はJR中央線が敷設されている。

■ 1市3町及び周辺地域の鉄道路線

	路線名	駅名
1	JR東日本中央本線	八王子・西八王子・高尾・相模湖・藤野
2	JR東日本横浜線	八王子・片倉・八王子みなみ野・相原・橋本・相模原・矢部・淵野辺・古淵・町田・成瀬
3	JR東日本相模線	橋本・南橋本・上溝・番田・原当麻・下溝・相武台下・入谷・海老名・厚木・杜家・門沢橋
4	JR東日本八高線	八王子・北八王子・小宮
5	京王電鉄相模原線	橋本・多摩境・南大沢・京王堀之内
6	京王電鉄高尾線	北野・京王片倉・山田・めじろ台・狭間・高尾・高尾山口
7	京王電鉄京王線	京王八王子・北野・長沼
8	小田急電鉄江ノ島線	相模大野・東林間・中央林間・南林間・鶴間・大和・桜ヶ丘・高座渋谷
9	小田急電鉄小田原線	鶴川・玉川学園前・町田・相模大野・小田急相模原・相武台前・座間・海老名・厚木・本厚木・愛甲石田
10	相模鉄道	海老名・かしわ台・さがみ野・相模大塚・大和
11	東急田園都市線	中央林間・つきみ野・南町田・すずかけ台・つくし野

鉄道利用の状況を、平成13年の1日あたりの総乗降客数でみると、相模原市内だけではなく、津久井地域の城山町、津久井町から、バス交通を介した利用客の多い橋本駅の乗降客数が最も多い。

■ 平成13年の1日あたりの総乗降客数上位5駅

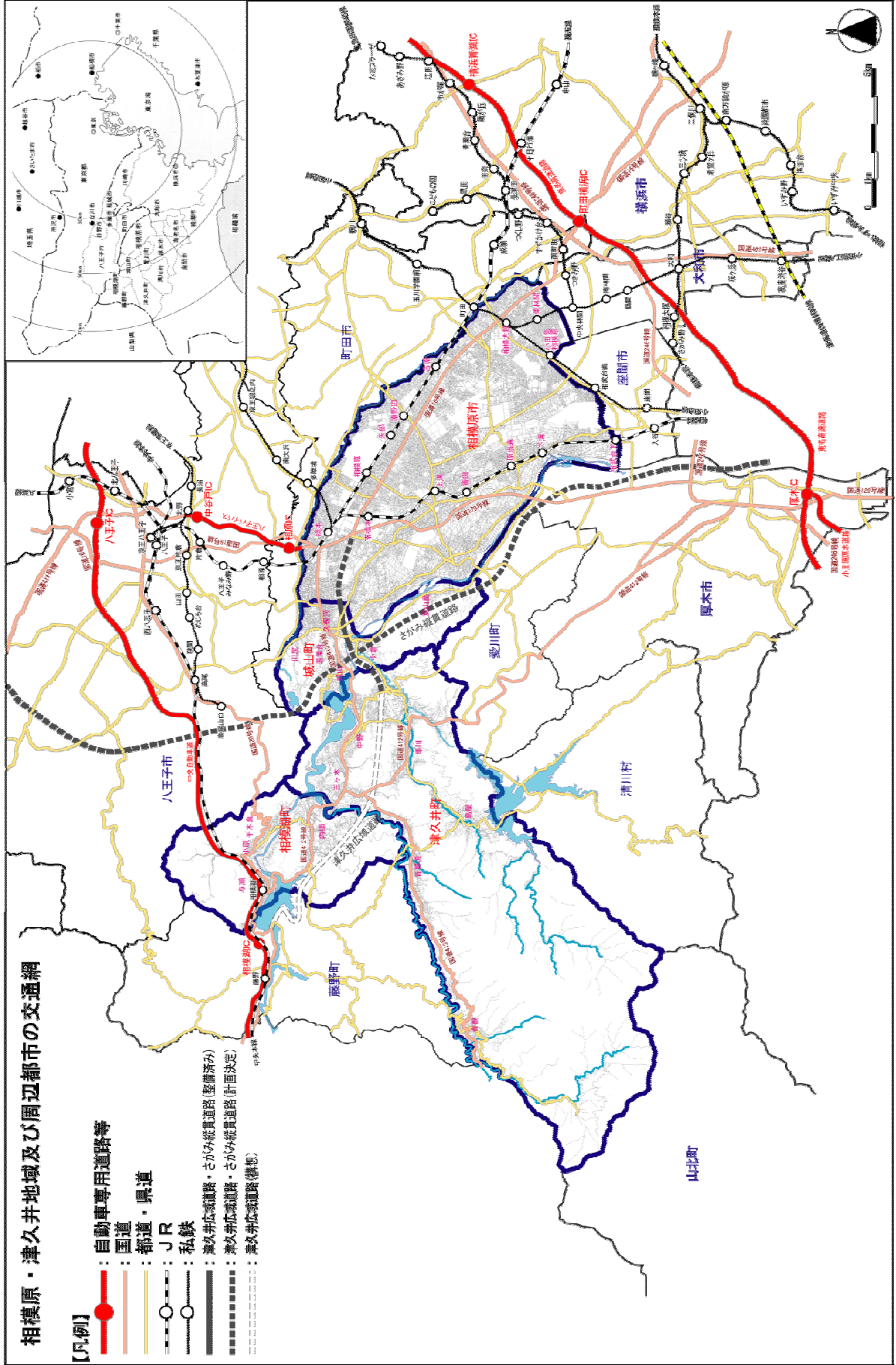
駅名	路線名	1日乗降客数
1 橋本	計	171,109
	JR東日本横浜線、相模線	98,056
	京王電鉄相模原線	73,053
2 海老名	計	151,439
	小田急電鉄小田原線	72,263
	相模鉄道	64,882
	JR東日本相模線	14,294
3 本厚木	小田急電鉄小田原線	145,277
4 相模大野	小田急電鉄江ノ島線	106,195
5 中央林間	計	102,332
	東京急行電鉄田園都市線	52,823
	小田急電鉄江ノ島線	49,509

資料：神奈川県鉄道の乗降客数（平成15年）

相模原・津久井地域及び周辺都市の交通網

【凡例】

- : 自動車専用道路等
- : 国道
- : 都道・県道
- : JR
- : 私鉄
- : 渡久奈川流域道路・さがみ縦貫道路(整備済み)
- : 相模川流域道路・さがみ縦貫道路(計画決定)
- : 相模川流域道路(構想)



7. 産業

(1) 産業別就業状況

1市3町の産業別就業者人口比を平成7年と平成12年で比較すると、第1次産業がわずかに減少、第2次産業が減少し、第3次産業の割合が増加している。

■ 産業別就業人口構成比等

都市名	国勢調査 産業別人口比						平成12年国勢調査(人)		
	平成7年			平成12年			常住人口	昼間人口	昼夜間人口比
	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次			
相模原市	0.7	35.0	63.6	0.6	31.2	66.1	605,540	525,258	86.7%
城山町	1.7	38.3	59.7	1.6	32.2	65.1	23,036	16,940	73.5%
津久井町	2.2	43.2	54.3	1.5	38.4	59.8	30,331	23,627	77.9%
相模湖町	2.0	31.7	65.7	1.7	29.7	68.0	10,894	8,644	79.3%

資料：国勢調査

(2) 農業の実態

相模原市の農家戸数は平成12年現在で1,592戸ある。このうち専業のものは10%に満たない。また、3町ではさらに専業率が低くなっている。

一方、農業産出額は平成13年から14年にかけて、相模原市では大きく伸びている。

■ 農家戸数及び農業産出額

都市名	平成12年農家戸数(戸)			農業産出額(1000万円)		
	農家戸数	うち専業	専業率	平成13年	平成14年	H14/H13
相模原市	1,592	155	9.7%	311	391	25.7%
城山町	298	16	5.4%	32	31	-3.1%
津久井町	512	32	6.3%	52	48	-7.7%
相模湖町	241	6	2.5%	14	14	0.0%

資料：平成12年農業センサスからみた神奈川の農業、生産農業所得統計

(3) 工業の実態

相模原市は、平成13年現在、製造品出荷額は約1兆6,076億円であり、製造業事業所数、製造業従業者数、製造品出荷額等とも減少傾向にある。

また、3町の事業所数は従業者数については津久井町を除いて、減少傾向にある。城山町及び相模湖は、出荷額等において、前年を上まわる結果を出している。

■事業所数、従業者数、製造品出荷額等の現況

都市名	製造業事業所数 (事業所)		製造業従業者数 (人)		製造品出荷額等 (100万円)		H13/H12		
	平成12年	平成13年	平成12年	平成13年	平成12年	平成13年	事業所数	従業者数	出荷額
相模原市	1,366	1,170	43,748	41,296	1,823,847	1,607,559	-14.3%	-5.6%	-11.9%
城山町	32	29	1,710	1,254	60,189	69,737	-9.4%	-27.2%	15.9%
津久井町	104	101	2,007	2,057	44,714	42,913	-2.9%	2.5%	-4.0%
相模湖町	34	32	528	524	8,143	10,688	-3.0%	-0.8%	31.3%

資料：工業統計調査

(4) 商業の実態

相模原市の小売業年間販売額は、平成14年現在で約1,205億円と他の3町の中で最も高い。小売業年間販売額、小売業商店数は、全体的に減少傾向であるが、小売業従業者数は城山町と相模湖町で増加している。

■商店数、従業者数、年間販売額の現況

都市名	小売業商店数 (店)		小売業従業者数 (人)		小売業年間販売額 (100万円)		H14/H11		
	平成11年	平成14年	平成11年	平成14年	平成11年	平成14年	商店数	従業者数	販売額
相模原市	5,831	5,203	47,822	44,844	129,959	120,506	-10.8%	-6.2%	-7.3%
城山町	174	163	1,273	1,510	3,232	2,419	-6.3%	18.6%	-25.2%
津久井町	231	224	1,413	1,263	2,386	2,259	-3.0%	-10.6%	-5.3%
相模湖町	122	114	534	535	638	633	-6.6%	0.2%	-0.8%

資料：商業統計調査

まちづくりの将来ビジョン検討委員会の検討経過

第1回検討委員会 4月30日(金) けやき会館

内 容 委員長・副委員長の選出
策定にあたっての基本的な考え方
検討スケジュール
各市町の現状



第2回検討委員会 5月21日(金) 城山町立公民館

内 容 副委員長、合併協議会委員の選出
地域資源、課題について(グループ別討議)



第3回検討委員会 6月12日(土)

内 容 津久井地域のタウンウォッチング
(城山町役場~城山湖~津久井湖記念館・津久井湖城山公園~
中野地区~緑の休暇村センター~津久井広域行政組合~
寸沢嵐地区~相模湖交流センター・相模湖公園)



第4回検討委員会 6月23日(水)

内 容 相模原市内のタウンウォッチング
(博物館~古淵~相模大野~小田急相模原~
麻溝台・新磯野土地区画整理事業~総合体育館~
南清掃工場~相模原麻溝公園~総合水泳場~
ウェルネスさがみはら)



第5回検討委員会 7月12日(月) ウェルネスさがみはら

内 容 都市内分権について(牛山委員の講演)
新市の将来像(キャッチフレーズ)について
まちづくりの目標(柱)について



第6回検討委員会 7月31日(土) 城山町保健福祉センター

内 容 新市の将来像(キャッチフレーズ)について
まちづくりの目標(柱)について



第7回検討委員会 8月21日(土) 相模湖交流センター

内 容 財政シミュレーションの基本的な考え方について
まちづくりの目標(柱)について



第8回検討委員会 9月5日(日) ウェルネスさがみはら

内 容 財政シミュレーションについて
合併シンボルプロジェクトについて
まちづくりの柱(目標)について
新市の将来像(キャッチフレーズ)について



第9回検討委員会 9月13日(月) ウェルネスさがみはら

内 容 まちづくりの目標について
合併シンボルプロジェクトについて
新市の将来像(キャッチフレーズ)について
財政シミュレーションについて



まちづくりの将来ビジョン検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	備 考
学識経験者	高見沢 実	横浜国立大学大学院工学研究院助教授
	牛山久仁彦	明治大学政治経済学部助教授
公募選出委員	秋本 博寿	相模原市
	井口 学	相模原市
	大竹 功	相模原市
	大貫 弘子	相模原市
	小山 昌寿	相模原市
	佐野 誠吉	相模原市
	高橋 幸一	相模原市
	寺崎 雄介	相模原市
	棟上 真理	相模原市
	中澤 信幸	相模原市
	平林 清	相模原市
	矢越 孝裕	相模原市・委員長
	佐藤 博夫	城山町
	坪倉 貴之	城山町
	中里 州克	城山町・副委員長
	野村 靖	城山町
	星川 康弘	城山町
	山口 尚子	城山町
	朝倉綜一郎	津久井町
	梅澤 勉	津久井町
	小嶋 重春	津久井町
	小嶋 理史	津久井町
	細野 信行	津久井町
	守屋 浩之	津久井町
	井上 栄作	相模湖町
	大神田光治	相模湖町
鈴木史比古	相模湖町	
永井 充	相模湖町	
橋本まどか	相模湖町	
藤原 恵一	相模湖町	

(各市町 50 音順)

まちづくりの将来ビジョンにおける「財政シミュレーション」について

本資料については、数値の精査中のため、一部の数値に変動のある場合があります。

財政シミュレーションは、一定の条件のもとで機械的に推計をしたもので、条件の与え方により、大きく結果が変わります。

この財政シミュレーションは、まちづくりの将来ビジョン報告書とともに9月21日に行われる第6回相模原・津久井地域合併協議会における協議の対象となります。(最終確定は、住民の皆様のご意見をお聞きしてからとなります。)

まちづくりの将来ビジョンにおける「財政シミュレーション」について

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町の1市3町が、将来、単独で財政運営を行う場合（合併しない場合）と合併して一つの自治体として財政運営を行う場合（合併する場合）のそれぞれについて財政シミュレーションを行う。

1 基本的な考え方

(1) シミュレーションの基礎となる数値と考え方

- ア 各市町の平成15年度決算見込み額を使用して推計する。
- イ 各市町の人口推計を行い、これを基に税収見込みなどを推計する。
- ウ 各市町の歳入歳出の実績値（平成11年度から15年度）を参考に、「平均増減率」などで推計する。
- エ ある年度だけの特殊要因による数値は除外して推計する。
- オ 現行の制度が変わらないものとして推計する。

(2) 推計対象とする会計

一般会計を対象とする。

(3) 推計期間

平成18年度から32年度までの15年間とする。

2 財政シミュレーションの方法（条件設定）

(1) 歳入

市町村税	
個人住民税	生産年齢人口に連動すると考えられることから、生産年齢人口（15～64歳人口）の増減により推計する。
法人住民税	県の直近3年間の平均伸び率を用いて推計する。
固定資産税	土地、家屋、償却資産及び交付金等相当分について、実績の増減率により推計する。なお、合併する場合は、城山町の土地について宅地並み課税分を見込む。
事業所税	実績の増減率により推計する。なお、合併する場合は津久井郡3町分を見込む。
都市計画税	相模原市分と城山町分について、それぞれ実績の増減率により推計する。なお、合併する場合は城山町宅地並み課税分を見込む。
その他	
軽自動車税	人口の増減により推計する。
市町村たばこ税	実績の増減率により推計する。

地方譲与税・交付金	実績の増減率、人口の増減等により推計する。
-----------	-----------------------

地方交付税(1)	
普通交付税	三位一体改革で地方交付税は削減の方向であるが、平成16年度は対前年度比6.5%マイナスとなっており、これ以上の削減がされた場合、税源移譲がない限り地方財政が成り立たない。そこで、16年度の実績値が継続するものと仮定する。なお、合併する場合は、合併算定替を適用し、合併補正（5カ年で30億円）を加算するとともに、合併特例債償還金相当額の70%を普通交付税に見込む。
特別交付税	各年度の全国的な状況（災害の発生状況など）によって、増減するので、11年度から15年度までの数値のうち最も少ない額で継続するものとして推計する。なお、合併する場合は、特別交付税措置（3カ年で6.5億円）を見込む。

<p>地方交付税(2)</p>	<p>平成 13 年度から地方財政の不足を補うために臨時財政対策債が発行されている。</p> <p>この元利償還金は普通交付税を算出する際の基準財政需要額に算入されることになっており、この欄には元利償還金相当額が普通交付税として交付されるものとしてその額を記載している。</p> <p>また、臨時財政対策債は平成 18 年度をもって終了するが、19 年度以降、これに代わる財源措置がないと地方財政が成り立たない。そこで、19 年度以降は、臨時財政対策債相当額が交付税として措置されるものとしてその額を加算している。</p>
<p>国・県支出金</p>	<p>国・県支出金のうち、扶助費相当分は扶助費の増加に伴い国より支出されるため、扶助費推計値に連動させて推計する。扶助費相当分以外は、年度ごとの増減が大きいため、平成 15 年度決算見込み額で継続するものとして推計する。</p>
<p>地方債</p>	<p>地方債は建設事業に対して使われるため、投資的経費に占める地方債発行額の割合を基に推計する（平成 18 年度には臨時財政対策債を含む）。なお、合併する場合は、合併特例債を限度額の 50%を利用すると仮定し、発行予定額を 10 年間毎年計上することとする。</p>
<p>その他</p>	<p>繰入金、繰越金のほか、旧津久井郡広域行政組合に関わる歳入や中核市移行等に伴う歳入、事務事業の一元化に伴う財政への影響額を見込む。</p>

(2) 歳出

<p>人件費</p>	<p>首長などの特別職は15年度実績値で推計する。</p> <p>議員報酬は15年度実績値で推計する。なお、合併する場合は、合併特例法の定数特例を適用するものと仮定して推計する(合併協議会の検討結果により変更になる場合がある)。</p> <p>一般職の給与は、各市町の定員管理計画を反映させる。なお、合併する場合は、3町の区域が中核市の区域となることなどによる事務の増加に伴い職員の増加が予想されるが、合併によるスケールメリットにより、総務・企画部門の職員数を減少させることができると仮定して推計する。また、旧津久井郡広域行政組合の人件費分を見込む。</p>
<p>扶助費</p>	<p>全国の増加率により推計する。</p>
<p>公債費</p>	<p>地方債の償還計画を基に推計する。なお、合併する場合は、合併特例債の償還を見込む。</p>
<p>物件費</p>	<p>実績の増減率により推計する。</p>
<p>補助費等</p>	<p>実績の増減率により推計する。</p>
<p>投資的経費</p>	<p>11年度から15年度までの数値のうち最も少ない額で継続するものとして推計する。(ただし、特殊要因による数値は除外)また、大規模事業のうち実施時期が明らかなものについては事業費の予想額を加算する。</p>
<p>その他</p>	<p>維持補修費や積立金のほか、旧津久井郡広域行政組合に関わる歳出や中核市移行等に伴う歳出、事務事業の一元化に伴う財政への影響額を見込む。</p>

3 財政シミュレーションのパターン

(1) 合併しない場合

相模原市
城山町
津久井町
相模湖町

(2) 合併する場合

新市（合併特例債 50%利用）

（財政シミュレーションをご覧いただく際の留意点）

この財政シミュレーションは、様々な仮定の積み重ねの上に行ったものです。（詳細の条件設定は、3ページから5ページを参照して下さい。）

財政シミュレーションは、財政制度の変更や社会経済状況の変化により、大きな影響を受けます。（特にいわゆる三位一体の改革による地方交付税制度の変更や扶助費の動向の変化）

今回のシミュレーションは、都市経営の視点から実施したものではなく、1市3町共通の考え方で条件設定をしていますので、個々の市町の実際の行政運営とは異なります。

投資的経費をどのように設定するかで、財政運営は大きく異なります。

「合併する場合」には、投資的経費と形式収支のプラスの分を合わせた中でまちづくりの将来ビジョンを実現するための様々な施策を実施していくことが可能となります。

4 財政シミュレーション結果

(1) 合併しない場合

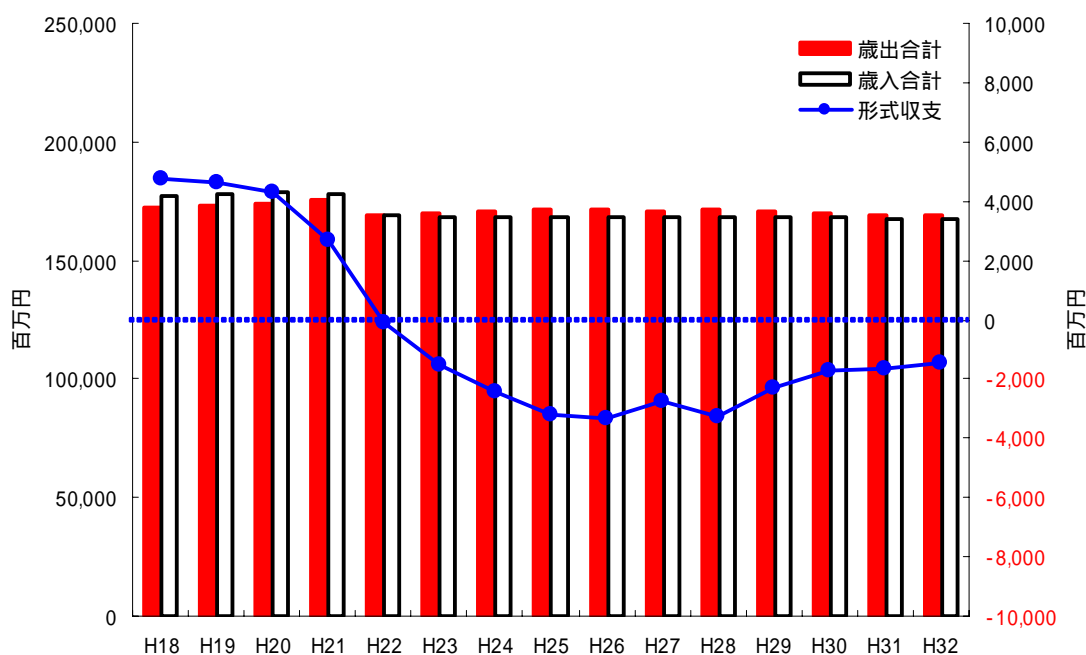
相模原市

(単位:百万円)

歳入	市税	地方譲与税・ 交付金	地方交付税 (1)	地方交付税 (2)	国・県支出金	市債	その他	歳入合計
平成18年度	92,563	14,436	518	939	29,215	19,116	20,538	177,326
平成19年度	92,121	14,449	518	7,717	29,848	12,930	20,538	178,121
平成20年度	91,697	14,463	518	8,023	30,460	12,920	20,538	178,620
平成21年度	91,243	14,473	518	8,330	31,048	12,908	19,538	178,058
平成22年度	90,847	14,487	518	8,637	26,854	9,310	18,340	168,993
平成23年度	90,573	14,514	518	8,637	27,379	9,307	17,538	168,465
平成24年度	90,266	14,536	518	8,637	27,866	9,302	17,538	168,663
平成25年度	89,747	14,535	518	8,637	28,311	9,287	17,538	168,572
平成26年度	89,241	14,535	518	8,637	28,709	9,272	17,538	168,449
平成27年度	88,729	14,532	518	8,637	29,058	9,256	17,538	168,269
平成28年度	88,333	14,541	518	8,637	29,354	9,247	17,538	168,168
平成29年度	87,978	14,553	518	8,637	29,595	9,239	17,538	168,057
平成30年度	87,644	14,566	518	8,637	29,778	9,232	17,538	167,912
平成31年度	87,359	14,583	518	8,637	29,900	9,227	17,538	167,763
平成32年度	87,124	14,604	518	8,637	29,962	9,225	17,538	167,608

地方交付税(1)...従来の普通交付税と特別交付税
地方交付税(2)...臨時財政対策債償還金相当額と臨時財政対策債代替措置分(平成19年度以降)

歳出	人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費等	投資的経費	その他	歳出合計	歳入合計	形式収支
平成18年度	36,062	27,952	18,523	22,164	7,992	30,104	29,744	172,540	177,326	4,786
平成19年度	36,062	29,149	18,562	22,094	7,829	30,104	29,680	173,481	178,121	4,640
平成20年度	36,132	30,308	18,641	22,025	7,670	30,104	29,430	174,311	178,620	4,309
平成21年度	36,500	31,421	19,027	21,955	7,514	30,104	28,870	175,391	178,058	2,667
平成22年度	36,644	32,478	19,589	21,887	7,362	22,823	28,285	169,068	168,993	-75
平成23年度	36,187	33,471	20,094	21,818	7,212	22,823	28,367	169,973	168,465	-1,508
平成24年度	36,261	34,393	20,358	21,749	7,066	22,823	28,450	171,100	168,663	-2,436
平成25年度	36,194	35,234	20,378	21,681	6,922	22,823	28,533	171,765	168,572	-3,193
平成26年度	36,698	35,989	19,280	21,613	6,781	22,823	28,616	171,801	168,449	-3,351
平成27年度	36,801	36,649	17,847	21,545	6,644	22,823	28,699	171,009	168,269	-2,740
平成28年度	37,198	37,210	17,467	21,477	6,509	22,823	28,782	171,467	168,168	-3,299
平成29年度	36,401	37,665	16,816	21,410	6,376	22,823	28,866	170,358	168,057	-2,301
平成30年度	36,062	38,011	16,218	21,343	6,247	22,823	28,950	169,654	167,912	-1,741
平成31年度	36,184	38,243	15,712	21,276	6,120	22,823	29,034	169,393	167,763	-1,630
平成32年度	36,135	38,360	15,425	21,209	5,995	22,823	29,119	169,067	167,608	-1,459



城山町

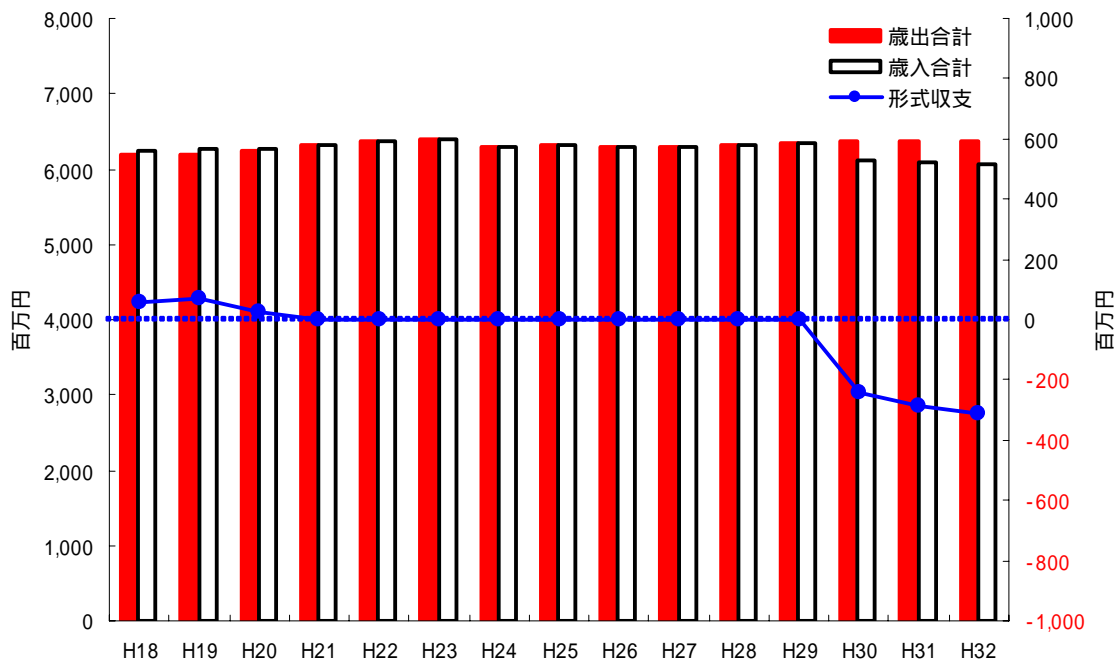
(単位:百万円)

歳入	市税	地方譲与税・ 交付金	地方交付税 (1)	地方交付税 (2)	国・県支出金	市債	その他	歳入合計
平成18年度	3,052	540	624	62	520	639	804	6,240
平成19年度	3,031	534	624	680	530	60	804	6,263
平成20年度	3,005	528	624	708	539	59	804	6,269
平成21年度	2,979	522	624	737	548	59	845	6,314
平成22年度	2,957	517	624	766	556	58	898	6,377
平成23年度	2,940	512	624	766	564	58	939	6,403
平成24年度	2,920	507	624	766	572	57	858	6,305
平成25年度	2,892	502	624	766	578	56	900	6,319
平成26年度	2,863	496	624	766	584	56	914	6,303
平成27年度	2,835	490	624	766	590	55	941	6,301
平成28年度	2,813	485	624	766	594	54	984	6,321
平成29年度	2,792	480	624	766	598	54	1,033	6,347
平成30年度	2,779	476	624	766	601	53	820	6,119
平成31年度	2,764	471	624	766	603	53	804	6,085
平成32年度	2,750	467	624	766	604	53	804	6,068

地方交付税(1)...従来の普通交付税と特別交付税

地方交付税(2)...臨時財政対策債償還金相当額と臨時財政対策債代替措置分(平成19年度以降)

歳出	人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費等	投資的経費	その他	歳出合計	歳入合計	形式収支
平成18年度	1,804	349	458	1,046	1,209	376	939	6,181	6,240	59
平成19年度	1,794	364	523	1,056	1,127	376	952	6,191	6,263	71
平成20年度	1,794	378	584	1,066	1,135	376	908	6,241	6,269	27
平成21年度	1,794	392	625	1,076	1,170	376	881	6,314	6,314	0
平成22年度	1,794	406	603	1,087	1,230	376	882	6,377	6,377	0
平成23年度	1,794	418	560	1,097	1,276	376	882	6,403	6,403	0
平成24年度	1,794	430	535	1,108	1,180	376	882	6,305	6,305	0
平成25年度	1,794	440	516	1,118	1,192	376	883	6,319	6,319	0
平成26年度	1,794	449	479	1,129	1,192	376	883	6,303	6,303	0
平成27年度	1,794	458	456	1,140	1,193	376	884	6,301	6,301	0
平成28年度	1,794	465	457	1,151	1,194	376	884	6,321	6,321	0
平成29年度	1,794	470	465	1,162	1,194	376	885	6,347	6,347	0
平成30年度	1,794	475	464	1,174	1,195	376	885	6,362	6,119	-243
平成31年度	1,794	478	460	1,185	1,196	376	885	6,373	6,085	-288
平成32年度	1,794	479	450	1,196	1,197	376	886	6,377	6,068	-310



津久井町

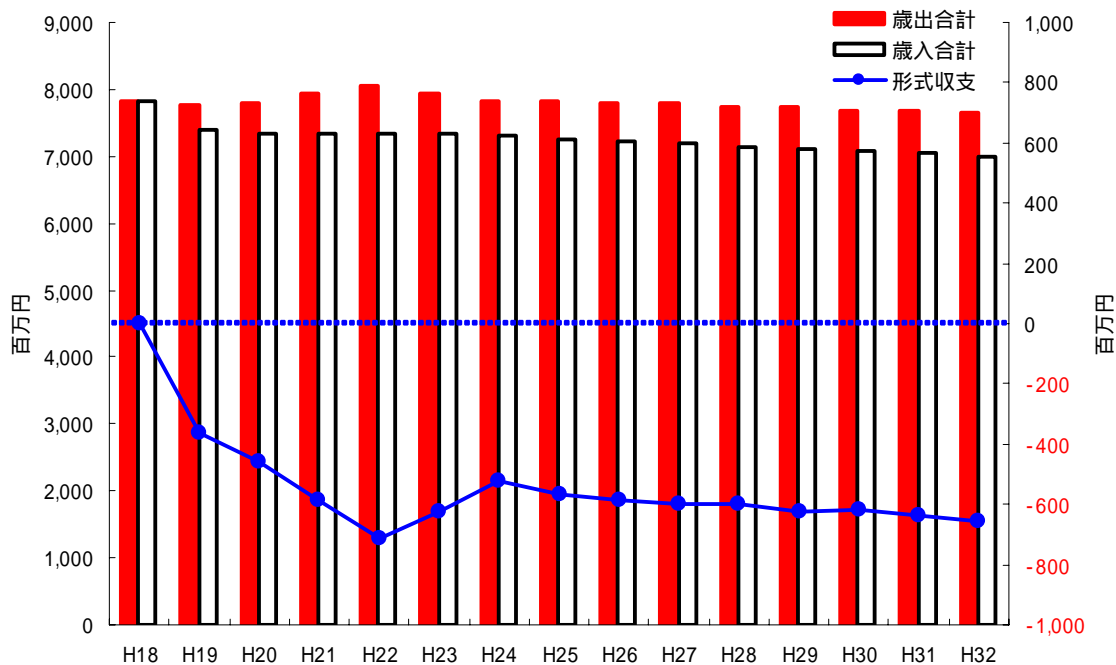
(単位:百万円)

歳入	市税	地方譲与税・ 交付金	地方交付税 (1)	地方交付税 (2)	国・県支出金	市債	その他	歳入合計
平成18年度	3,275	594	959	28	694	941	1,321	7,811
平成19年度	3,243	585	959	734	706	248	919	7,393
平成20年度	3,215	575	959	768	719	247	859	7,342
平成21年度	3,179	565	959	803	730	246	859	7,342
平成22年度	3,150	556	959	837	742	245	859	7,349
平成23年度	3,126	548	959	837	752	244	859	7,326
平成24年度	3,099	539	959	837	762	243	859	7,299
平成25年度	3,063	530	959	837	771	242	859	7,261
平成26年度	3,028	521	959	837	779	241	859	7,224
平成27年度	2,991	511	959	837	786	240	859	7,183
平成28年度	2,957	502	959	837	792	239	859	7,146
平成29年度	2,927	493	959	837	797	238	859	7,110
平成30年度	2,893	484	959	837	800	237	859	7,070
平成31年度	2,866	476	959	837	803	236	859	7,037
平成32年度	2,843	468	959	837	804	236	859	7,006

地方交付税(1)...従来の普通交付税と特別交付税

地方交付税(2)...臨時財政対策債償還金相当額と臨時財政対策債代替措置分(平成19年度以降)

歳出	人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費等	投資的経費	その他	歳出合計	歳入合計	形式収支
平成18年度	2,383	450	514	1,048	1,535	875	1,006	7,811	7,811	0
平成19年度	2,383	470	565	1,034	1,430	875	999	7,757	7,393	-364
平成20年度	2,383	488	603	1,021	1,437	875	992	7,799	7,342	-457
平成21年度	2,383	506	636	1,007	1,539	875	985	7,931	7,342	-589
平成22年度	2,383	523	662	994	1,647	875	978	8,062	7,349	-714
平成23年度	2,383	539	590	980	1,609	875	971	7,948	7,326	-622
平成24年度	2,383	554	595	967	1,481	875	964	7,820	7,299	-520
平成25年度	2,383	568	601	954	1,492	875	958	7,831	7,261	-569
平成26年度	2,383	580	586	942	1,490	875	951	7,806	7,224	-583
平成27年度	2,383	590	572	929	1,488	875	944	7,782	7,183	-598
平成28年度	2,383	600	547	917	1,486	875	938	7,744	7,146	-599
平成29年度	2,383	607	548	904	1,484	875	931	7,732	7,110	-622
平成30年度	2,383	612	521	892	1,482	875	924	7,690	7,070	-620
平成31年度	2,383	616	519	880	1,480	875	918	7,671	7,037	-635
平成32年度	2,383	618	531	869	1,478	875	912	7,665	7,006	-659



相模湖町

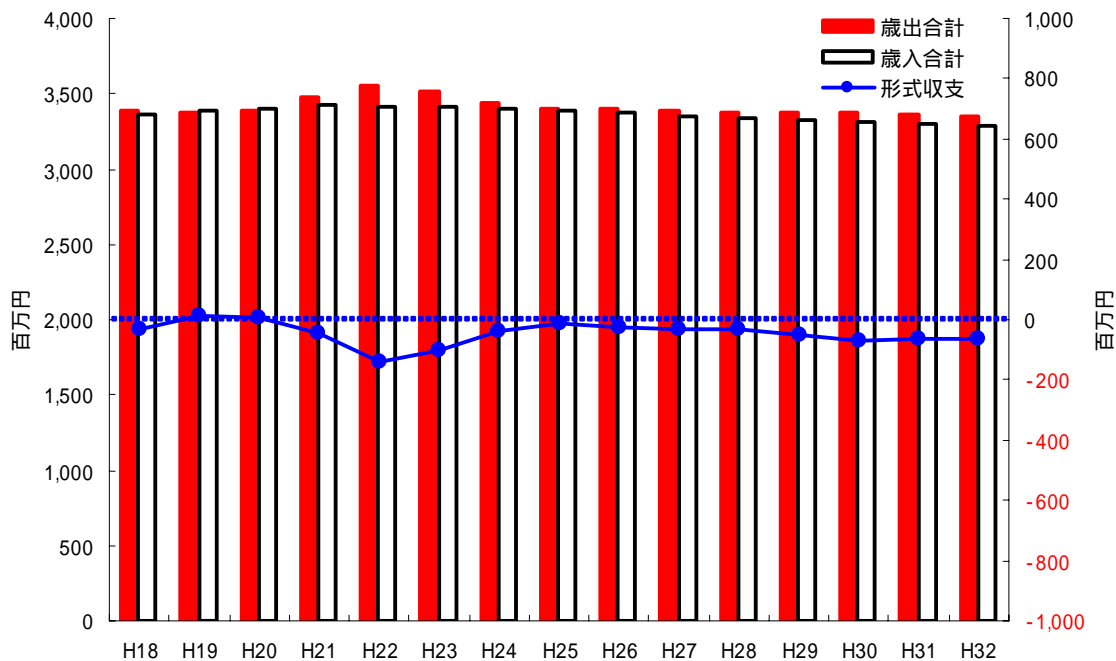
(単位:百万円)

歳入	市税	地方譲与税・ 交付金	地方交付税 (1)	地方交付税 (2)	国・県支出金	市債	その他	歳入合計
平成18年度	988	206	920	62	404	399	382	3,362
平成19年度	976	203	920	476	408	27	378	3,388
平成20年度	967	201	920	495	412	26	378	3,400
平成21年度	957	199	920	513	416	26	399	3,430
平成22年度	945	196	920	532	419	26	378	3,417
平成23年度	936	194	920	532	422	26	378	3,409
平成24年度	927	192	920	532	425	26	378	3,400
平成25年度	913	189	920	532	428	25	378	3,385
平成26年度	900	186	920	532	431	25	378	3,371
平成27年度	884	183	920	532	433	24	378	3,354
平成28年度	871	180	920	532	435	24	378	3,340
平成29年度	859	177	920	532	436	24	378	3,326
平成30年度	847	174	920	532	437	23	378	3,311
平成31年度	835	171	920	532	438	23	378	3,297
平成32年度	824	169	920	532	438	22	378	3,283

地方交付税(1)...従来の普通交付税と特別交付税

地方交付税(2)...臨時財政対策債償還金相当額と臨時財政対策債代替措置分(平成19年度以降)

歳出	人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費等	投資的経費	その他	歳出合計	歳入合計	形式収支
平成18年度	984	131	392	565	669	128	525	3,394	3,362	-32
平成19年度	984	136	385	568	625	128	549	3,374	3,388	14
平成20年度	984	142	389	572	628	128	551	3,393	3,400	7
平成21年度	984	147	406	575	681	128	554	3,474	3,430	-44
平成22年度	984	152	426	578	723	128	563	3,554	3,417	-137
平成23年度	984	157	402	581	689	128	573	3,513	3,409	-105
平成24年度	984	161	350	584	649	128	583	3,439	3,400	-39
平成25年度	984	165	285	588	654	128	594	3,397	3,385	-12
平成26年度	984	168	269	591	654	128	604	3,398	3,371	-26
平成27年度	984	171	239	594	653	128	615	3,384	3,354	-30
平成28年度	984	174	212	598	653	128	625	3,373	3,340	-34
平成29年度	984	176	198	601	652	128	636	3,375	3,326	-49
平成30年度	984	178	187	604	652	128	648	3,381	3,311	-69
平成31年度	984	179	155	608	651	128	659	3,364	3,297	-66
平成32年度	984	179	125	611	651	128	671	3,348	3,283	-66



(2) 合併する場合

新市(合併特例債50%利用)

(単位:百万円)

歳入	市税	地方譲与税・交付金	地方交付税(1)	地方交付税(2)	国・県支出金	市債	その他	歳入合計
平成18年度	99,912	15,775	3,947	1,091	31,083	21,094	24,575	197,478
平成19年度	99,405	15,771	3,849	9,606	31,742	13,264	24,564	198,200
平成20年度	98,917	15,768	3,816	9,995	32,380	13,253	24,561	198,688
平成21年度	98,391	15,759	3,918	10,383	32,742	13,239	23,557	197,989
平成22年度	97,933	15,756	4,146	10,771	28,571	11,926	23,645	192,748
平成23年度	97,799	15,768	3,770	10,771	29,118	11,922	23,642	192,790
平成24年度	97,444	15,774	3,990	10,771	29,625	11,916	23,639	193,160
平成25年度	96,857	15,755	4,206	10,771	30,088	11,898	23,637	193,213
平成26年度	96,285	15,737	4,418	10,771	30,503	11,880	23,634	193,229
平成27年度	95,704	15,716	4,627	10,771	30,867	11,862	23,632	193,179
平成28年度	95,240	15,708	4,772	10,771	31,175	9,564	23,629	190,858
平成29年度	94,820	15,703	4,622	10,771	31,426	9,554	23,627	190,523
平成30年度	94,428	15,700	4,443	10,771	31,616	9,545	23,625	190,128
平成31年度	94,089	15,701	4,105	10,771	31,744	9,539	23,622	189,572
平成32年度	93,804	15,708	3,771	10,771	31,808	9,536	23,620	189,018

地方交付税(1)...従来の普通交付税と特別交付税、合併特例債償還金相当額の70%、合併支援措置
 地方交付税(2)...臨時財政対策債償還金相当額と臨時財政対策債代替措置分(平成19年度以降)

歳出	人件費	扶助費	公債費	物件費	補助費等	投資的経費	その他	歳出合計	歳入合計	形式収支
平成18年度	41,800	28,882	19,886	24,163	8,636	31,483	36,946	191,796	197,478	5,682
平成19年度	41,614	30,119	20,036	23,871	8,471	31,483	36,710	192,305	198,200	5,896
平成20年度	41,507	31,317	20,218	23,580	8,310	31,483	36,561	192,976	198,688	5,712
平成21年度	41,699	32,466	20,979	23,289	8,153	31,483	35,802	193,871	197,989	4,118
平成22年度	41,667	33,559	21,733	22,997	7,998	24,203	36,279	188,437	192,748	4,312
平成23年度	40,974	34,585	22,304	22,706	7,847	24,203	36,107	188,726	192,790	4,064
平成24年度	40,880	35,537	22,697	22,415	7,698	24,203	35,869	189,299	193,160	3,860
平成25年度	40,813	36,407	22,835	22,123	7,553	24,203	35,694	189,628	193,213	3,585
平成26年度	41,317	37,186	21,973	21,832	7,411	24,203	35,753	189,673	193,229	3,556
平成27年度	41,420	37,869	20,770	21,540	7,271	24,203	36,195	189,268	193,179	3,911
平成28年度	41,817	38,448	20,630	21,249	7,134	24,203	34,875	188,356	190,858	2,503
平成29年度	41,020	38,918	19,927	20,958	7,000	24,203	35,479	187,505	190,523	3,018
平成30年度	40,681	39,275	19,246	20,666	6,869	24,203	35,869	186,809	190,128	3,319
平成31年度	40,803	39,516	18,369	20,375	6,740	24,203	36,103	186,109	189,572	3,463
平成32年度	40,754	39,637	17,727	20,084	6,614	24,203	36,365	185,383	189,018	3,635

